

尚絅学入門
2017 年度



尚絅学院大学

目次

はじめに	5
・ 尚綱学の目的	5
・ 尚綱学の概要	5
1. 尚綱学院について.....	6
1.1 建学の精神と校名および校章について.....	6
1.2 新しいスローガンとシンボルマーク	7
2. 明治期の日本におけるプロテスタント・キリスト教宣教	8
2.1 キリスト教についての基礎知識.....	8
・ アメリカのバプテスト教会	8
2.2 明治期日本におけるキリスト教宣教について	8
(1) 禁令高札撤去と三つのバンド	8
(2) バプテスト派による東北伝道	10
3. 家塾から尚綱女学会、尚綱女学校へ.....	11
3.1 家塾の開始とバイブル・ウーマン	11
3.2 尚綱女学会の創設.....	11
3.3 エラ・オー・パトリック(Ella O. Patrick)	12
3.4 尚綱女学校の設立と国家主義的教育との対立.....	14
3.5 ミードの離仙	14
4. アニー S. ブゼル	16
4.1 生い立ち	16
4.2 日本へ	16
4.3 婚約破棄.....	16
4.4 ブゼルの教育	16
(1) 聖書の授業	17
(2) 英語の授業	17
(3) 音楽に対する態度	17
(4) その他の授業.....	17
(5) ブゼルの夏休み.....	18
(6) 同窓生への言葉.....	18
4.5 バイブル・クラス	19
(1) 成り立ち.....	19
(2) 「火のバプテスマ」	20
(3) 近代日本文化史に遺る逸材の輩出	20
・ 島地雷夢君の場合.....	21
・ 東北大飢饉と米国からの救済	21
4.6 奮闘と妬み	21
・ 東西バプテスト女性外国伝道協会の統合	23
4.7 第三回目の帰米.....	23
4.8 遠野時代.....	24
4.9 晩年と永眠	26
4.10 記念事業.....	26

5. エラ・オー・パトリック・ホーム	27
5.1 略史	27
5.2 エラ・オー・パトリックのプロフィール	27
5.3 建築概要	27
5.4 建物の用途	28
5.5 復元方針	28
5.6 建築的特徴	28
5.7 エラ・オー・パトリック・ホームの不思議	29
5.8 服部英太郎・文男遺文庫	29
6. 中庸	30
6.1 四書	30
6.2 中庸の精神	30
・メソテース	30
6.3 衣錦尚綱	31
7. 吉野作造	32
7.1 生い立ち	32
7.2 キリスト教への入信	32
・ブゼルの聖書講義	32
7.3 宗教と科学の衝突	32
7.4 経世の志	33
7.5 結婚と東京帝大入学、社会主義者との距離	33
7.6 福音主義論争	33
7.7 在外研究	33
7.8 「民本主義」の主張	34
・キリスト教と民本主義	35
7.9 朝日新聞への弾圧と浪人会との立会演説会	36
7.10 社会事業	36
7.11 理想主義：普通選挙の主張	36
7.12 三一運動と五四運動への共感	37
7.13 関東大震災と転職	37
7.14 吉野作造と賀川豊彦の協働	38
7.15 死去	38
8. 大正デモクラシー	39
8.1 大正デモクラシーの時代の流れ	39
・大正デモクラシー理解のためのトピックスとキーワード	39
8.2 吉野作造の民本主義	40
8.3 民本主義への批判	40
8.4 大正デモクラシーの限界	41
8.5 鈴木安蔵を通じて戦後の日本国憲法へ	41
9. メリー D. ジェッシーと尚綱女学院	42
9.1 女子高等教育のヴィジョン	42
・平和の意義について	42
9.2 過労	43

目次

9.3 キリスト教や西洋文化の敵視.....	44
9.4 ジェッシーの米国帰国.....	44
10. 戦時中の尚綱.....	46
10.1 日本的キリスト教への傾倒.....	46
10.2 翼賛体制下のキリスト教主義学校.....	46
10.3 尚綱らしさの保持.....	47
11. 戦後の尚綱 — 根づいた花.....	49
11.1 転がる石に苔は生えない.....	49
・ジェッシーの尚綱の教育に対する信念.....	49
11.2 根づいた花.....	49
11.3 短期大学の整備.....	50
11.4 展開期.....	50
11.5 名取キャンパスへの統合移転.....	51
11.6 尚綱学院大学の誕生と発展.....	52
11.7 震災後の尚綱学院大学.....	53
12. 尚綱の校歌・学院歌.....	55
12.1 尚綱女学校校歌.....	55
12.2 尚綱学院歌.....	57
13. 尚綱の森の自然.....	59
14. 沿革.....	64
15. キリスト教教派が設立に関わった主な教育機関《設立年順》.....	65
参考文献(五十音順).....	66

尚綱学入門

はじめに

尚綱学の目的

尚綱学院大学で「尚綱学」という授業が始まったのは 2011 (H23)年からである。尚綱のキリスト教学校としての長い歴史と伝統を学生たちが学び、母校に対する愛着と誇りをもって卒業し、人生を歩んでいってほしいという願いから始まった。

自分の大学について学ぶことを、正規の科目として設置している大学は、他にあまり例がない。尚綱の学生に限らず教職員にとっても、この「尚綱学」という科目の性質を理解して学び、尚綱への親しみをもっていただければと思う。

さて、「尚綱学」の目的は以下のとおりである。

- 1) 日本近代史を舞台に「尚綱女学会」から「尚綱学院」に連なる先人たちの足跡を辿り、建学の精神がどのように受け継がれてきたかについて学ぶ。
- 2) 本学の歴史を学ぶ過程で、同時代の社会、政治、文化等に関する知識を改めて獲得する。
- 3) 総合人間科学部が目指す「人間の総合理解」に向け、様々な学問的観点から「人間」に対するアプローチを試みる。
- 4) これらの学習を通して、尚綱学院大学についての理解を深め、愛着を抱き、本学学生であることに誇りを持つこと、そして「自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる」という建学の精神の実現に踏み出す第一歩を切る。

「尚綱」から「尚綱」へ
「尚綱女学会」開校以来、1943(S18)年に「仙台尚綱女学校」が「仙台尚綱高等女学校」に改められるまで、正式校名表記には「尚綱」が用いられていた。

本資料では、これ以降、便宜上統一して、登場する校名は「尚綱」と表記する。

尚綱学の概要

尚綱学の概要については以下のとおりである。

前半は、1892(M25)年の尚綱女学会の創立時の背景、創立者の意図、校名の由来、特に初代校長アニー S. ブゼルの理念と生き方、そして大正・昭和を経て現在に至るまでの尚綱学院の歴史と今についての講義が中心である。また、学院の象徴であるエラ・オー・パトリック・ホームの見学や、同窓生など特別講師を迎えての講義も行われる。

後半では「人間とはどのような存在か」、そして「人間という存在を探る科学的視点にはどのようなものがあるか」について、各学科から教員が一人ずつ出て、オムニバス形式での講義となる。総合人間科学部に属する他学科の学問分野や研究方法について学ぶことを通して、自分の所属学科とその専門分野についての全体的理解を促したい。

1. 尚綱学院について

1.1 建学の精神と校名および校章について

尚綱学院は、1892(M25)年、米国の外国伝道協会 WBFM-SW からキリスト教教育のために派遣された女性宣教師たちにより、「尚綱女学会」として創設された。後継者たちは、創設した宣教師たちの「キリスト教精神に基づく教育によって、自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる」という思いを尚綱学院の建学の精神として、これまで守り継承して来た。

「尚綱」の校名は、中国の古典『中庸』の一節である「衣錦尚綱」(錦を衣て綱を尚う)から採られた。それは金や銀、色鮮やかな糸で織られた美しい着物を着ていたとしても、それを見せて驕るのではなく、尚(くわ)えて質素な打掛(綱)をまとい、錦のきらびやかさを慎ましく被う、という君子の道を説いた言葉である。

1892年11月に着任した女性宣教師 A.S.ブゼルは、この校名の由来を聞き、その謙虚な精神はキリスト教においても重要な精神の一つであるとし、新約聖書ペトロの手紙 I 3:3~4 を示して「この意味を以て学校の精神とすべきである」と主張した。

ὦν ἔστω οὐχ ὁ ἔξωθεν ἐμπλοκῆς
τριχῶν καὶ περιθέσεως χρυσίων
ἢ ἐνδύσεως ἱματίων κόσμος, ἀλλ' ὁ
κρυπτὸς τῆς καρδίας ἄνθρωπος ἐν
τῷ ἀφθάρτῳ τοῦ πραέως καὶ
ἡσυχίου πνεύματος ὃ ἐστὶν
ἐνώπιον τοῦ θεοῦ πολυτελής.

(UBS Greek New Testament 5th)

あなたがたの装いは、編んだ髪や金の飾り、あるいは派手な衣服といった外面的なものであつてはなりません。むしろそれは、柔和でしとやかな気立てという朽ちないもので飾られた、内面的な人柄であるべきです。このような装いこそ、神の御前でまことに価値があるのです。
(新共同訳)

したがって、建学以来ブゼルの示したこの聖句を根拠として、「尚綱」という校名が意味する「外面ではなく内面を豊かにする」人間を目指すことを、尚綱学院はこれまでスクールモットーとして大切にしてきた。

校章は創立十周年にあたる 1902(M35)年に制定された。モチーフになったのは梅の花である。厳しい寒さを凌いで開花し、やがて芳しい香りを放つ梅の花は、女性の美徳の象徴であるとともに、中国の故事にも記されているように勉学の精神の象徴ともされていた。

この梅の花に建学の精神との共通性を見出し、梅の花の形にも似た「尚」の字の中に「綱」の字をあしらってデザインしたものが、現在まで受け継がれている校章である。

第二次世界大戦後、短期大学の設置と同時に、左肩に「大学」の字を配した校章が加わり、現在に至っている。



好文木

梅はまたの名を「好文木」という。中国の『東見記』には「梅云好文木、故事在晉起居注：晉武好文則梅開、廢學則梅不開」とある。武

尚綱学入門

帝にまつわる故事からそう云われている。「文を好めば、則ち梅開く」とは、学問に親しめば梅の花が開くという意味である。いつも梅の花が咲き誇る、そんな場所でありたいという願いがこの校章に込められている。

もう一つのエピソード・校名について

尚綱の設立時には、日本人の協力者が数名いた。そのうちの一人久保寺豊大郎は、和漢数の教授を受け持ちながら校務にも従事していた。校名を決める時、彼は『論語』にある「克己復禮」を提案した。しかし、ミードは自分が肥満であったので「復禮（フクレ）」は語呂が面白くないというので却下した。再考の結果、『中庸』から「衣錦尚綱」の尚綱が提案され決定したようである。

当時、キリスト教教育を行なうことは許されていたが、校名にキリスト教関係の名前を付けることは許されていなかった。したがって、地名や建学の精神・思想を表す漢文等から選ぶ他なかったのである。

熊本市にある尚綱大学（学校法人尚綱学園）は1888(M21)年「済々黌附属女学校」として開校。1891(M24)年10月「尚綱女学校」と改称されたが、両者間に特別の関係はない。

1.2 新しいスローガンとシンボルマーク

戦後の1948(S23)年に法人名を「尚綱女学院」に改称した尚綱であったが、その後、五十五年間慣れ親しんできたその名称も、2003(H15)年に共学の四年制大学開学を期に、「尚綱学院」と改称された。

そして、2007(H19)年、尚綱学院は「育む、羽ばたく、知と心」というフレーズを学院の新しいスローガンとして掲げ、シンボルマークと各校のロゴタイプをすべて一新した。

新しいシンボルマークは、未来へ羽ばたく SHOKEI を表現している。

シンボルマークのモチーフは、SHOKEI の“S”である。翼をイメージした、しなやかさと力強さとをあわせ持つそのアウトラインは、進化し続ける SHOKEI の伸びやかな「羽ばたき」を優美に表現している。また、同時に羽ばたきが象徴するのは、学校法人尚綱学院の発展であり、総合学院の推進力。そして学生・子どもたち一人ひとりの成長、飛躍、未来への「希望」である。



新しいスローガンに込められた意味

育む キリスト教を土台とした心の教育による人間形成。他者との共生の在り方を探る。

羽ばたく 個々に養った知識や技術を自信に、次なる夢や社会・世界へ飛躍するための力を養成する。

知と心 学びと人間性、双方をバランス良く培う教育環境の更なる充実。知力理性のマインド、精神・真意のスピリット、愛情・感情・興味・気持ちのハートを集約したキーフレーズでもある。

2. 明治期の日本におけるプロテスタント・キリスト教宣教

2.1 キリスト教についての基礎知識

はじめに、キリスト教が生まれる母胎となったのはユダヤ教であるということを知らなければならない。ナザレの村の大工の息子イエスはユダヤ教徒であり、ユダヤ教の教師であった。このイエスこそが待ち望んでいたメシア(救い主)であると信じて「イエスこそ、キリストである」と告白した者たちがキリスト者と呼ばれるようになった。

「キリスト」という呼称

「キリスト」とは、救い主を意味する「油注がれた者」というヘブライ語の「メシア(マシアッハ)」のギリシャ語訳である。イエス＝キリスト、キリスト＝イエスは、名前ではなく、「イエスがキリストである」「キリストであるイエス」という信仰告白定型文である。

Ἰησοῦς Χριστός

キリスト教は、ローマ帝国によるエルサレム神殿攻略の後、ユダヤ教から生み出され、パレスチナから地中海世界に広がって行き、それぞれの歴史的・地理的背景の違いから、西方教会(ローマ・カトリック教会)と東方教会(ギリシャ正教会＝ハリストス教会)に、更にローマ・カトリック教会から英国国教会(聖公会)やプロテスタント諸教会が分かれて生み出された。

ギリシャ正教会
ローマ・カトリック
プロテスタント

プロテスタントにはそれぞれ歴史的・政治的・地理的背景の違いから特徴を持った多くの教派があるが、いずれも十六世紀の宗教改革に源流を発している。

尚綱女学会は、プロテスタントの一教派、米国北部バプテスト教会(アメリカン・バプテスト)から派遣された独身の女性宣教師たちによって創設された。

アメリカのバプテスト教会

バプテストはバプテスマ(浸礼)を授ける者の意味。バプテスマはギリシャ語の βαπτίζω (=baptize 水に浸ける)に由来する。

米国バプテスト教会は、南北戦争(1861-65)をきっかけに、米国北部バプテスト教会(アメリカン・バプテスト)と、米国南部バプテスト教会(サザン・バプテスト)に分かれた。クリントン大統領やカーター大統領はサザン・バプテスト教会の信徒、公民権運動で有名なマルティン・ルーサー・キング・ジュニアは、アメリカン・バプテスト教会の牧師である。

King, Martin Luther Jr. (1929-68)

2.2 明治期日本におけるキリスト教宣教について

(1) 禁令高札撤去と三つのバンド

1873(M6)年に「吉利支丹及び邪宗門の禁令」の高札が撤去され、日本各地でキリスト教伝道運動が開始された。なかでも「熊本バンド」や「横浜バンド」、「札幌バンド」と呼ばれるグループは日本プロテスタント史の源流であると言われている。

バンド(band)は集団、一団などの意味。

五榜の掲示(第三札)：吉利支丹及び邪宗門の禁令

1868年4月7日(慶応4年3月15日)に太政官が立てた五つの高札のうちの一つ。



定

一切支丹邪宗門ノ儀ハ堅ク御制禁タリ若不審ナル者有之ハ其筋之役所へ可申出御褒美可被下事
慶應四年三月 太政官

「熊本バンド」

日本組合基督教会の支柱とも言うべき集団。熊本洋学校の教師ジェーンズの感化を受けた学生たちが1876(M9)年、「奉教趣意書」に署名したことに始まる。

京都の同志社英学校を1879(M12)年に卒業した小崎弘道、宮川経輝、海老名弾正、横井時雄、金森通倫、山崎為徳、浮田和民、不破唯次郎などの第一期生十五名は、全員が熊本洋学校の卒業生だった。

彼らは新島襄による同志社英学校創立、1886(M19)年の日本組合基督教会の成立、私立学校設立活動等、近代日本の歴史を展開させる起爆剤となった。中には、海外の宣教団体からの経済的独立を強く主張する者も少なくなかった。『六合雑誌』『新人』『基督教新聞』等のキリスト教系メディアで活躍する人材を輩出した。

「横浜バンド」

1872(M5)年、バラの指導の下「バラ塾」で学ぶ学生を中心にして居留地に設けたプロテスタントの集団。横浜は西洋文明の中心地で宣教師について英語を学ぶものが多かった。

1872(M5)年1月、バラ塾の学生たちは、新年初週祈祷会に参加し、バラの熱心な説教に応答して、洗礼を受ける決意を固

Janes, Leroy Lansing
(1838-1909)

Ballagh, James
Hamilton (1832-1920)

明治期の日本におけるプロテスタント・キリスト教宣教

めた。3月10日に洗礼を受け、キリスト教信者になった十一名で日本基督公会を設立。この公会は外国のどの教派にも所属しない無教派の福音主義信仰に立っていた。

このメンバーの多くは、やがて S.R. ブラウンの「ブラウン塾」に入塾して、英学や神学を学び、日本のキリスト教会の指導者となり、教育界、政治の分野などで活躍した。押川方義、本多庸一、井深梶之助、植村正久等は代表的人物である。

横浜バンドは、宣教師の指導を受け、最初から本格的な教会設立に結集した点が特徴であり、熊本バンド・札幌バンドと大きく特徴を異にするところである。

「札幌バンド」

アメリカ人教育者 W.S. クラークらの感化を受けて、1877(M10)年、「イエスを信ずるものの契約」に署名し入信して教会を形成した札幌農学校学生たち十五名(翌年更に十八名が署名)の集団。中心となったのは大島正健、伊藤一隆、内村鑑三らで1881(M14)年、札幌独立教会を設立した。このうち内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾らはメソジスト監督教会の宣教師ハリスより洗礼を受けた。

札幌バンドの評価は、北海道地方への影響以上に、内村鑑三から発する「無教会主義」、および内村や新渡戸のもつ幅広い影響に負うところが多い。札幌バンドは、先の契約を核とし、同じ農学校学生であるという結束の契機をもち、クラークの自発的な伝道を受け継ぎ盛んな信徒伝道を行った。札幌唯一のプロテスタント教会を形成したが、無教派主義を選択した。

(2)バプテスト派による東北伝道

東京大学予備門の前身、東京英語学校の英語教師トーマス P. ポートが1879(M12)年7月、宣教師に転身し、1880(M13)年1月、盛岡で伝道を開始した。盛岡が東北におけるバプテスト発祥の地である。同年1月25日、盛岡第一浸礼教会が設立され、10月10日、仙台第一浸礼教会(現在の仙台ホサナ教会)が設立された。

1884(M17)年、E.H. ジョーンズが仙台に定住する最初の宣教師として来仙し、1890(M23)年、現在の尚絅学院中高校舎がある八幡の土地を購入し、立派な宣教師館を建築し、活動の拠点とした。

1886(M19)年から仙台での宣教活動のために、アメリカン・バプテストの西部女性外国伝道協会(WBFMSW)の独身女性宣教師たちが、次々と送られてくるようになった。最初の女性宣教師は H.M. ブラウンだった。彼女は最初ジョーンズ宅に住み込んで活動していた。1887(M20)年、N.E. ファイフが加わり、新伝馬町・東三番丁の教育会館「五城館」の隣家に一緒に住んで活動した。1889(M22)年9月、ブラウンが離仙し、1890(M23)年2月、L.A. フィリップスが来仙、9月には L. ミードが来仙して活動に加わった。

Brown, Samuel
Robbins (1810-80)

Clark, William Smith
(1826-86)

Harris, Merriman
Colbert (1846-1921)

Poate, Thomas Pratt
(1848-1924)

3. 家塾から尚綱女学会、尚綱女学校へ

3.1 家塾の開始とバイブル・ウーマン

尚綱学院の創立は 1892(M25)年である。しかし、その誕生前の産みの苦しみの時代のあったことを忘れてはならない。

1890(M23)年 9 月、米国北部バプテスト教会の西部女性外国伝道協会(WBFMSW)から派遣され、仙台を拠点に活動していた女性宣教師ファイフ、フィリップス、ミードの三人は、五城館の隣家に住んでいた。五城館というのは、教育会館として建てられた洋風の建物で、現在の青葉区新伝馬町・東三番丁にあった。

女性宣教師たちは、その隣家を活動拠点にして少女たちを同居させ、共同生活をしながら女子教育を行なった。そして、自分たちの宣教活動を補助する日本人の女性伝道師、いわゆるバイブル・ウーマン(Bible Woman)と呼ばれる女性たちの養成に取り組んだのである。これが後に「尚綱女学会」に発展する家塾(Christian Girls' School Home)の始まりである。

バイブル・ウーマン

バイブル・ウーマンとは、女性宣教師の助手として伝道活動に協力する日本人女性のことである。女性宣教師が訪問伝道をする際にバイブル・ウーマンを伴うことは、まだ流暢とは言えない宣教師の日本語力を補うという点においても、土地勘のない『外国の町』を歩く宣教師のナビゲーターの役目を果たすという点においても、そして外国人の戸別訪問を突然受ける日本人に、安心感を与えるという点でも、大変有効であった。特に婦人や子どもたちへの伝道においては、バイブル・ウーマンを活用することは有益であり、成果を上げることができたようである。

小林孝男
『主のみ旨のみが実現
する』尚綱総研出版会
2015 年

翌 1891(M23)年 2 月、この小さな家塾の拡充のために、彼女たちは五城館のあった場所から新坂通・北二番丁突き当りの旧山田邸（現宮城県知事公館敷地内）を借り受けて、新しい広い住居に移り住んだ。

しかし、バイブル・ウーマン養成が軌道に乗りつつあったにもかかわらず 1889(M22)年にブラウン、1891(M24)年 4 月にフィリップスが、9 月にはファイフも仙台を離れ、残されたのはミードだけだった。誕生し、軌道に乗りかけた家塾は今や風前の灯となった。残されたミードはどんな思いで先輩宣教師たちを見送ったことだろう。

3.2 尚綱女学会の創設

一人で家塾の管理と運営にあたらなければならなくなったミードは、他の学校を歴訪し調査し、教師陣を集めて翌年再起に出た。久保寺豊太郎、下甲子郎という日本人の協力者を得たことも幸いしただろう。今や消えそうになった家塾を寄宿学校の形式に整え、私塾として復活させたのである。1892(M25)年 8 月「尚綱女学会」の誕生である。

Mead, Lavinia,
(1860–1941)

「尚綱女学会」
1892 年創立

家塾から尚綱女学会、尚綱女学校へ

産声をあげた尚綱女学会に設置されたのは、キリスト教の信仰と女性の教養を授ける普通科(Academy Course)と、バイブル・ウーマン養成のための聖書科(Bible Training Course)の二科であった。最初の生徒は五人から十人だったようである。

その後も苦労は絶えなかったようであるが、何がミードをそこまで突き動かしたのであろうか。それは遠いアメリカの地から船でやってきて、言葉も文化も全く違う異国日本の東北の地で、自由とか平等とか権利といったことを全くと言っていいほど知らない幼く若い女子たちに対する、キリストの愛の実践であったといってよいだろう。

この創立したばかりの尚綱女学会の運営のために、同年 11 月に来日した A.S.ブゼルが加わった。ミードとブゼルの二人三脚による活躍がここから始まった。尚綱学院はこの 1892(M25) 年を創立年としている。

翌 1893(M26)年 9 月、尚綱女学会は中島丁に移転した。旧山田邸では手狭になるくらい女学会が発展してきたからであろう。この移った場所が、広瀬町で現在の尚綱学院中学・高校の体育館とグラウンドのあるところである。



ミード(左)とブゼル(右)

3.3 エラ・オー・パトリック(Ella O. Patrick)



中島丁に移転したとはいえ、そこは宣教師の住宅の一部を借りて、一階を教室兼寄宿舍、二階を女性宣教師の居室として使用したいわば仮の校舎であった。増築もしたようであるが、それでも十分な広さではなかった。

以前から、ミードとブゼルは母国の教会や信者たちに手紙を送り、尚綱女学会の独自の施設建設のための支援(献金)を求め続けていた。そして、その願いが現実のものになったのが、1896(M29)年に竣工したエラ・オー・パトリック・ホームである。尚綱独自の最初の新築の校舎がこれである。この建物については、後述されるのでそこに任せたい。ここでは、建物の名前の由来となったエラ自身について記しておこう。

エラは、1846年2月28日にアメリカ合衆国はニューヨーク州の裕福な家庭に生まれた。父親は厳格で信仰深く、母親は慈愛に満ちた人であった。このような両親に愛され育てられたエラは、キリスト教の信仰によって神を愛し人を愛する人間に成長していった。しかし、彼女の一生は「痛みと共に生きる生涯」であった。

Patrick, Ella O.
(1846.2.28-
1892.11.12)

2歳の時、エラは重い熱病に罹り、腹部に腫瘍ができた。それは脊髄の近くにも生じ、しばしば激痛を発した。歩行も困難となり、一生治らなかった。しかし、自分の病のために介護をしてくれる母親の苦労を少しでも軽くしたいと心がけ、また、自分の苦しみを他の人に感じさせないように、できるだけ快活に振るまい、喜んで社会人としての義務を果たし、病床にある時も人を喜ばせることを忘れなかったようである。学校には通えなかったが、両親に支えられながら独学で勉学に努め、優秀な成績を修めた。

21歳の時にイリノイ州に移住し、生涯をそこで暮らすのであるが、エラは教会の働きだけでなく、社会福祉活動にも取り組んだ。さらに、世界伝道事業に対しても多大な関心を抱き、そのために出来る努力を惜しまなかった。シカゴにあるWBFMSWの書記になったときは、日本の女子教育に深い同情を抱いていたに違いない。もし健康に恵まれていたなら、おそらく海外伝道に身を投じ、宣教師として日本にやってきていたことだろう。

エラは46歳で生涯を閉じるが、最後の二年間は耐え難い苦痛の連続だった。しかし、それに耐え続けた。医者は麻酔剤の服用を勧めたが、エラは受け入れなかった。朦朧とした意識の中で天に召されるのではなく、はっきりした意識を持ちながら、召される日を迎えることを望んだからであった。

しかし、医者がいよいよ臨終の近いことを宣告した時、友人たちは少しでも痛みを和らげるために麻酔剤の服用を彼女に懇願した。エラはこれを受け入れた。しかし、その前に親しい人たちを枕元に集め、楽しい会話のひと時を過ごし、讃美歌を数曲共に歌った。そして、青年と教会のため、伝道協会のために祈り、世界に神の正義が実現することを祈り、友人のために祈り、最後に自らを神に委ねる祈りをささげたあと、皆と挨拶をかわしてから麻酔剤を服用したという。1892(M25)年11月12日、エラは苦しみから解放されて天に召された。

ちょうど、この二日後の11月14日、WBFMSWから派遣された宣教師ブゼルが日本の横浜港に上陸した。海外伝道に対する強い思いと志を持っていたエラの身代わりにブゼルになったのだという人もいた。

その後、エラの父親は若くして死した愛娘の遺志を継いで、尚綱の新校舎建築のために多額の金額を寄付された。それを建設資金の貴重な一部として建てられたのが、尚綱の最初の校舎である。そして、この校舎は「エラ・オー・パトリック・ホー

家塾から尚綱女学会、尚綱女学校へ

ム」と呼ばれた。献堂式以降「尚綱女学会」のことを英語で“Ella. O. Patrick Home”と表すようにもなった。

現在、ゆりが丘キャンパスに移設復元されたこの建物を見上げ、中に身を置く時、尚綱に連なる私たちは、エラの信仰と情熱を思い起こしたい。

3.4 尚綱女学校の設立と国家主義的教育との対立

1899(M32)年、私塾であった尚綱女学会は尚綱女学校の設立認可願を提出し、11月24日、宮城県知事より私立学校令に基づく設立認可を受けた。学校創設者としてミードとブゼルの両名が署名し、初代校長にはブゼルが就任した。以来、尚綱学院は11月24日を創立記念日としている。

ところで、「私立尚綱女学校」が認可されるときに、尚綱は厳しい選択を迫られた。

明治初期には国の欧化主義を反映してキリスト教については寛容であったが、天皇制の下での教育勅語に基づく国家主義的教育とキリスト教教育の対立が次第に顕在化してきたのである。そのために国は教育と宗教の分離政策を取った。そして、1899(M32)年8月3日、「文部省訓令第十二号」が発令された。

尚綱女学校
1899(M32)年
11月24日設立認可

文部省訓令第十二号

一般ノ教育ヲシテ宗教外ニ特立セシムルノ件

一般ノ教育ヲシテ宗教外ニ特立セシムルハ学政上最必要トス依テ官立公立学校及学科課程ニ関シ法令ノ規定アル学校ニ於テハ課程外タリトモ宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許ササルヘシ

明治三十二年八月三日

これにより尚綱女学校は、創立時から厳しい三つの選択肢に直面した。

- 1) 一切の宗教教育を認めないこの指令に従って、聖書の教育と校内での礼拝を止めて、つまりキリスト教の理念を放棄して、文部省の認可と上級学校への進学資格付与権を取得する。
- 2) 廃校にする。
- 3) 従来通り聖書を教科として残し、礼拝も継続するという教育方針を貫いて、つまりキリスト教的伝統を維持するが、学校制度としては「各種学校」に甘んじてとどまる。

尚綱女学校は、最も困難な第三の道を選択した。その後、上級学校への進学資格を文部大臣から受けるのは1910(M43)年1月まで待たなければならなかった。

関東学院、明治学院、青山学院などもこの道を選択した。他方、麻布中学校は、第一の道を選択した。

3.5 ミードの離仙

尚綱女学会を立ち上げ、ブゼルと二人三脚で歩んできたL.ミードであったが、1902(M35)年、尚綱女学校認可後三年にして仙台を去っている。その間の詳しい事情については記録がない。

尚綱学入門

ただ、1895(M28)年に大火傷を負う事故があり、女学会の具体的運営や活動についてはブゼルが主に担当するようになったことと、それまで一貫してバイブル・ウーマン養成のための女子神学校を構想してきたミードにとって、聖書科に入学する生徒が少なかったことは、尚綱を辞する遠因になったかもしれない。

しかし、ミードはその後数名のバイブル・ウーマンを伴って山口県の長府に赴いた。さらに下関そして大阪で女性宣教師として働き続けた。1908(M41)年には、彼女によって大阪市に「バプテスト女子神学校」が創設されている。現在そこは「社会福祉法人キリスト教ミード社会館」(大阪市淀川区)となって社会福祉活動を広く展開し続けている。

ミードは1926(T15)年7月に帰国、1941(S16)年10月9日に天に召された。81歳だった。

アニー S. ブゼル

4. アニー S. ブゼル

4.1 生い立ち

アニー S. ブゼルは、マサチューセッツ州ローウェル市に八人兄弟姉妹の二女として誕生した。父オリヴァー A. ブゼル(1835-1914)は、若くして農業に従事しながら近くの学校で教育を受け、やがて書店で働いた。その後資金を得て独立に至った。この間、1858年にアデレード L. メリルと結婚する。父は南北戦争(1861-1865)勃発に際して進んで入隊し、戦傷で除隊、製靴業、製薬業にも従事した。

Buzzell, Annie Syrena
(1866.8.3-1936.2.5)

1872年にブゼル一家はネブラスカ州に移住。父オリヴァーは農業、伝道事業に奔走した。その後牧師になり、多くの開拓伝道と教会設立に活躍し、州立外国伝道委員長にもなった。

4.2 日本へ

敬虔な信仰と熱心な開拓伝道の精神に燃える家庭でアニーは育てられた。四歳年上の姉ミニーも 1884 年秋に中国の汕頭(スワトウ)に宣教師として派遣され、三年間宣教活動に従事した。アニーは両親や姉の影響を強く受け、海外伝道を志すようになった。

高校卒業後、ギボンのネブラスカ・バプテスト神学校に入学したアニーは、卒業後六年間小学校教師として働いた。立派な実績を挙げ、将来を嘱望されていたが、彼女の志すところは、郷里の子弟教育ではなく海外伝道であった。

そして 1892(M25)年 4 月、二十六歳の時に WBFMSW の宣教師に任命された。同年 8 月に L.ミードが仙台に尚綱女学会を創立したばかりだった。アニーは、このミードを助けるため、女性宣教師として日本に派遣されることになった。10 月に米国を出港。11 月 14 日に横浜着、19 日に仙台に到着した。ミードの良き協力者として、アニーは尚綱の学校運営にあたった。

4.3 婚約破棄

ところでブゼルには婚約者がいた。将来は共に日本で伝道することを誓った青年であった。その婚約者がまだ神学校にいたので、ブゼルだけ先に来日したのである。しかし三、四年後、いつのまにか婚約指輪がはずされ、書斎に飾ってあった写真も見られなくなった。

彼女は婚約を破棄して、自分の結婚と家庭建設を断念したのである。そして、わが子を育てない代わりに、尚綱女学会そのものを自分の家庭のように思い、女学生と後述するバイブル・クラスのメンバーらを心から愛した。ゆえに多くの日本の青年男女から「師母」と慕われるに至ったのである。

4.4 ブゼルの教育

さて、ブゼルが1899年(M32)年に「尚綱女学校」の初代校長となった時、彼女は三十三歳であった。それまでもミードを助

けながら、女学会の初期の時代を多くの困難をかかえながら、新しい学校の教育と運営にあたってきたにちがいない。

ブゼルの女子教育に対する精神や情熱については、彼女が行なった授業内容を見ることが有効であろう。尚綱女学校は、1899(M32)年当時「文部省訓令第十二号」の条件を満たさなかったために「高等女学校」ではなく「各種学校」として出発したわけであるが、ブゼルたちはこの制度を逆に利用し、むしろ自由に、そして普通よりも高い水準で授業を展開したようである。主な担当科目について見てみよう。

(1) 聖書の授業

ブゼルの聖書担当時間数は非常に多かった。ブゼルは聖書の全貌を教えるだけでなく、キリスト教教義も教えた。当時生徒だった人々の証言には、「学校のまだ若い頃は、聖書の授業時間は非常に多くて、殆んど聖書学校の観があった」「先生の聖書の御講義は、時の学校にとりましては、骨とも髄とも云うべきものでございました。…尚綱女学校の教ふるあらゆる学課の中、先生の聖書の御講義は、全校に熱血となって注がれ、学校の生命となりました」とある。他にも多くの証言があり、ブゼルが聖書の授業にどれだけ心血を注いだかよく分かるだろう。

(2) 英語の授業

英語の授業時間数は週六時間。当時の日本の義務教育における英語教育の時間数を上回るものだった。ブゼルはここでも下級から上級に至るまで授業を担当し、上級生には詩文の暗唱を課していた。

“Good Book”という標題をつけたノートに英詩を清書させ、生徒たちが暗唱できるまで繰り返し朗唱させたようである。そのとき意味が分からなくても、それらの詩が生涯の心の糧になることを確信していたからであろう。

(3) 音楽に対する態度

ブゼルは音楽の授業にも力を入れた。その頃仙台に在住していたリディア・デニングの指導助言を受けながら、音楽専門の学校でもないのに、彼女は音楽理論を厳格に教えた。正規の授業以外にもオルガンの個人教授、英語の讃美歌による合唱指導なども行った。

ブゼルの音楽に対する態度は、これを一つの独立した芸術として研究したり教えたりするのではなく、「神に対する礼賛の表現」という理解に基づくものであった。ブゼルにとって宗教と音楽は、共に手を携えて歩み行くべきものだったのである。

(4) その他の授業

この他にも、ブゼルは育児法も教えた。育児法といってもその内容は極めて広く、性教育、人体生理、婦人生理、処女の尊厳、女性の権威、理想の女性像、恋愛の秘義、結婚の原理、家庭生活の理想、母性愛などまで盛り込まれていた。

アニー S. ブゼル

生徒は半ば驚異、半ば好奇心を以ってこれを迎へつつも、先生の謹厳な態度の中にも慈母の如き温情籠もれる言葉に、誰一人浮ついた気分を起す者なく、皆真面目に講義を聞くのであった。

栗原基『ブゼル先生伝』
大空社 1992年 P.201

その他ブゼルは編物なども教え、週二十八時間の授業を行っていたと記録されている。

(5) ブゼルの夏休み

6月下旬から7月上旬にかけて行われる一学期の試験が終われば、生徒にとっては待ちに待った夏期休暇である。しかし、ブゼル校長はその夏期休暇を利用して、生徒や信者の家庭訪問を始め、その他傷病兵や病人を次々と見舞った。

ブゼルはこれを「御年始」と言った。しかしそれは儀式ばったものではなく、各家庭の個人個人にやさしく接し、心からの同情と労わりを示すものであった。また、手作りのグレープ・ジュースや西洋菓子などをいつも持参した。したがって、彼女を迎える側も喜んで迎え、また一家を挙げてその訪問を楽しみにしていたようである。

ただ、この時期の外国人教師は、それぞれ避暑地保養地に休暇を取りに行くのに対し、ブゼル校長だけはいつも校内に留まって手紙書きや訪問をするので、それをよく思わない教師たちもいたに違いない。

(6) 同窓生への言葉

ところで、ブゼルたちが教えた尚綱の生徒たちは毎年どれくらいいたのだろうか。そして卒業生は何人だったのだろうか。

『尚綱女学院 100年史』によれば、「1903年(明治36年)、第六回の卒業生は九名に達し、卒業生の総数は20名となった」とあり、同年6月に同窓会発足式が行われている。

この同窓生たちに向けて書かれたブゼルの手紙が、1907(M40)年12月に創刊された同窓会の機関誌「むつみのくさり」創刊号に掲載されている。この年は尚綱創立十五周年で、11月に祝賀会が行われた直後の刊行であった。このブゼルの文章、特に見出しにある“Be good”という言葉が、その後代々尚綱の同窓生たちを力づけ、そればかりでなく尚綱の教育の根本を指し示す言葉として今も大事に読まれ続けている。

ブゼルのメッセージ

“Be good”

...It makes no difference whether we are rich or poor, - we can be good, no matter whether we hold high positions, or work quietly in some lowly corner, - if we are good, the world will be better for our being in it. Only a few can be rich, or great, or learned, but we can all be good. So again I repeat my simple message to each one of you, - “Be a good girl, and God will bless you, and make you a blessing to the world.”

尚綱学院同窓会編
『むつみのくさり』
1907(M40)年創刊号
掲載英文メッセージ
(抜粋)

私たちは金持ちであろうと貧乏であろうと、高い地位にしようと思えば目立たぬ片隅で静かに働いていようとするという違いはありません。しかし、私たちが good である時、世界ははじめて私たちの存在によって、良き所になるのです。金持ちや偉大な人物や学識の人になれる者はごくわずかでしょう。しかし私たちは誰でも良き人になることができます。あなた方一人一人にもう一度私のシンプルなメッセージをくりかえしたいと思います。良い娘でありなさい。そうすれば神はあなたを祝福し、あなたを世の恵みにしてくださるでしょう。

(下線筆者)

世間ではどんなに目立たぬ存在であろうと「私たちが good である時、世界ははじめて私たちの存在によって、良き所となるのです。」”Be a good girl, and God will bless you and make you a blessing to the world.”とは、まさに他者のために生き、全ての栄光を神に帰したブゼルの人生そのものだったと言ってよいだろう。

他にも、ブゼル校長は卒業式の式辞などに生徒たちに次のように熱く語っている。

学校の人気のあるなしは、その学校の在籍生や教師方によるものよりも、過半は学校を出た同窓生によるものであることを、皆さんは卒業証書と共に握って行って欲しいものです。

尚綱の教育の真価はまさに卒業生の存在と活躍にかかっていることを、ブゼルは確信していたに違いない。

わずか二十名で始まった同窓会であったが、卒業生数の増加とともに尚綱の同窓会は拡大の一途をたどり、物心両面から尚綱を支える役を果たしていった。今日でもブゼルやジェッシー(第二代校長、本資料第9章参照)の精神を受け継いだ同窓会の存在は大きく、尚綱の発展を見守りながら現在に至っている。

4.5 バイブル・クラス

ブゼルは尚綱女学校の中だけでなく、外でも忙しく働いた。市内の青年婦人会への指導、教会と自宅での讃美歌指導、十箇所以上の日曜学校の監督、セツルメント(settlement)と自営館(Jieikan)という貧しい人々が自営自活できるように作られた施設の管理・運営などである。中でもバイブル・クラス(聖書研究会)に集まった青年たちに対する感化は、その後大きな実を結ぶに至った。

(1) 成り立ち

当時二高に一人の生徒がいて、修学の必要上、学業の傍ら尚綱女学校で教鞭をとることになった。ある日、彼はブゼルに聖書を教えてほしいと希望した。これがバイブル・クラスの始まりである。1893(M26)年4月であった。

最初は、毎週日曜日の午後にブゼルの書斎で、一対一で始められた。その後、数名の青年学生が加わるようになって、ブゼルを中心にして聖書研究をするようになった。最後はいつも祈

『ブゼル先生伝』を題材にした創作劇

「Goodness -ブゼル先生伝」が、尚綱学院創立百二十周年記念事業として、2012(H24)年8月に上演された。

現在の同窓生数は、約66,000人である。また、全国には15(内県外6)の支部があり現在も活発に活動を続けている。

アニー S. ブゼル

禱をもって終えられた。

来日して間もないブゼルである。日本語も決して上手ではなかったはずである。つまり彼女は英語で、通訳なしで、バイブル・クラスを始めたということである。当然、学生たちは内容の理解もさることながら、英語の理解に苦労したに違いない。しかし、バイブル・クラス開始後一年間で、四名が信仰を告白してバプテスマを受けたという記録がある。彼女の人柄と熱意はその弊害を越えて彼らに大きな影響を与え、人間形成の貴重な手がかりとなっていたのである。

(2) 「火のバプテスマ」

1897(M30)年、ブゼルは米国に帰るか、仙台に残るかの決断をしなければならなかった。真剣な祈りの末、日本伝道の為に一生を捧げる決心をした。『ブゼル先生伝』では、遂にブゼル先生は「火のバプテスマ」を受けられたと記されている。その結果バイブル・クラスは一層の活気を呈した。

中でも1898(M31)年は、バイブル・クラスの歴史の中で一番飛躍した年であった。土曜日夜のバイブル・クラスだけでなく、日曜日午後にも学びの時をもつようになり、火曜日午後には祈祷会が行われるようになった。そして、そこから受洗者が次々に起こされた。内ヶ崎作三郎、島地雷夢、吉野作造の三名は、1898(M31)年7月3日に仙台第一浸礼教会(現在の仙台ホサナ教会)で中島力三郎牧師からバプテスマを受けた。

このバイブル・クラスはブゼルの三回目の帰米となる1919(T8)年7月まで二十七年間にわたり連綿と継続された。

(3) 近代日本文化史に遺る逸材の輩出



1897 (M30) 年のバイブル・クラスメンバー

後列：左から伊藤宅治、守屋孝蔵、木幡富治、土井亀之助、栗原基
中列：左から内ヶ崎作三郎、井上元成、A.S.ブゼル、吉野作造、中島祐、小西重直
前列：左から渡邊幸次郎、島地雷夢、平塚廣義、神谷健夫

バイブル・クラスのメンバーは二高の学生たちだった。彼らの多くは東大に進学し、「東京帝国大学基督教青年会」のリー

主要メンバー

栗原基(1876-1967)第三高等学校(京大)教授、戦後尚綱学院短期大学で教えた。島地雷夢(1879-1914)島地黙雷の息子、神戸一中で矢内原忠雄を教える。内ヶ崎作三郎(1877-1947)早稲田大学教授、衆議院副議長、国際連盟協会理事。吉野作造(1878-1933)東京大学教授、大正デモクラシーの思想的指導者。小西重直(1875-1948)京都大学総長。佐藤清(1885-1960)英文学者、N.ホーソンの『緋文字』を翻訳した。

ダーや中心的メンバーとして活躍した。東大卒業後は、牧師、大学教授、国会議員などになり、その後の日本の近代化に影響を与えた人物も少なくなかった。中でも吉野作造は、政治学者として東京帝国大学教授となり、日本の大正デモクラシー運動の思想的指導者となったのは誰もが知るところである。(第7章参照)

このように数多くの逸材を輩出してきたブゼルのバイブル・クラスのことを、ある人は「熊本バンド」「横浜バンド」「札幌バンド」に続く「仙台バンド」と呼んでいるが、そう言って差し支えないだろう。

仙台バンド

島地雷夢君の場合

島地雷夢の父島地黙雷師(1838-1911)は浄土真宗本願寺派の勧学として、仏教界に盛名を馳せていた。自分の後継者となるべき息子がキリスト教に改心したことで、「もし改心して再び仏門に入らなければ、父子とも死ぬ以外にない」と迫った。

島地雷夢は大学卒業後、病にかかり、神戸一中の教諭となり倫理の授業を担当し好評だった。1915(T4)年2月9日に三十七歳で死亡。告別式で、黙雷の養子である島地大等が現れ、「兄は永い間迷っていましたが、眠る時は父の許に参りますと申しました」と挨拶し、父の墓に合わせ葬られた。

島地黙雷師
(1838-1911)

東北大飢饉と米国からの救済

1905(M38)年に起きた冷害(宮城県地方が最悪で平年比19%の収穫)による東北の危機的な飢餓状況に対し、ブゼルをはじめとする仙台在住の宣教師たちは、1906(M39)年ウィリアム・アクスリング牧師を本国に代表として送り、超教派の救済活動団体 "THE FOREIGN COMMITTEE OF RELIEF FOR THE FAMINE IN NORTH JAPAN" を結成し、東北救済のための寄付をアメリカ国内で募った。

4.6 奮闘と妬み

ブゼルの生活はいつも仕事中心であった。休日も平日と変わらず、夏も冬も働き通した。彼女は、WBFMSW から支給される一定の給料以外に、余計な経費を請求しないことにしていた。継ぎ接ぎの靴下を履いたり、自分は出来るだけ節約したりして、少しでも貧しい学生の志を遂げさせたいと援助を惜しまなかったようである。したがって、時には旅費に事欠いたり、大事な時に着る晴れ着がなかったり、日光、有馬、鎌倉などで開かれる宣教師会議に出席しないこともあったという。多くの外国人宣教師が猛暑を避けて向かった避暑地の軽井沢にも行かなかったようである。

ブゼルのこのような態度は、当然同労の宣教師や日本人の教師たちにも心地良いものではなかったに違いない。出る釘は打たれる。正しい人がかえって苦勞するのはよくあることである。ブゼルが同労者以上に日本人に親しく接し、骨身を惜しまず働き、潔癖すぎるほど質素な生活に甘んじたことが、将来非難を

アニー S. ブゼル

受ける素地を作りつつあった。

そして、恐れていたことが起こった。あるとき、入院している一生徒を見舞った機会から、ブゼルは、数奇な運命に泣く人に親しく面会するようになった。その一身上の境遇に深く同情したブゼルは、彼を救おうと決心した。そして、その人を引き取り、骨身を惜しまず世話をしたのであった。その後、様々な困難な事情もあったが、彼にキリストの信仰と神にある平安を得させるまでにこぎつけた。

しかし、この事件を理由にして、ある教師たちはブゼルの仙台から追放しようと考えた。「先生が学校に頑張っている間は枕を高くして眠ることは出来ない」「一人の校長が永く学校に留まるのはよろしくない」「大学教育を受けたでなし、学殖の認めるものでなし、かかる人は学校草創の時代はともかく、尚綱の今日にあっては新陳代謝の法則によって善処すべき」などの議論が噴出した。いらぬ噂も流れたに違いない。

この間、尚綱では大きな記念行事が行なわれていた。1917(T6)年の創立二十五周年記念式と新校舎献堂式、そして、ブゼル先生在職二十五年祝賀会である。内容は大盛況で関係者は大満足だったようであるが、ブゼルの心の中はいかばかりであったろうか。校長を巡るこのようなある種不安定な情勢は、ブゼルの 1919(T8)年の第三回帰米までの数年間続いた。そして、その後尚綱は大きく変わっていく。

創立二十五周年記念式、新校舎献堂式、 及びブゼル先生在職二十五年祝賀会

・音楽会

1917(T6)年11月21日晚に行われ、600人が参集。合唱、オルガン独奏、ピアノ連弾、独唱などがあり、最後に土井晩翠作詞、佐々木英作曲の新作校歌(本資料 p.55参照)が生徒一同によって歌われた。

・祈祷会

11月22日午前9時、新校舎が与えられたことに対する感謝と、この校舎を立派に使用できるように、生徒と教職員共に祈った。司会はブゼル。吉川一水とアキスリングが説教を行った。

・創立二十五年記念式ならびに新校舎献堂式

11月22日午後1時開始

奏楽

讚美歌

聖書朗読

祈祷

教育勅語奉読

君が代

建築報告

沿革の紹介 ブゼル

説教 アキスリング

献堂祈祷

献堂の歌

祝辞
校歌
祝祷

・ブゼル先生在職二十五年祝賀会

11月23日午前9時開始

讚美歌合唱

聖書朗読

祈祷

バイブル・クラスの教え子や各団体代表の祝辞

職員・同窓会・生徒代表の祝辞

記念品贈呈

答辞 ブゼル

※記念会発起人会は、この時、学校内にブゼル記念文庫を創設し、永くこれを保存することを報告した。

・バザー：11月23日午後から三日間に渡って行われた。

・女学生大会：11月23日午後。

・同窓大会：11月24日午前。

いずれも大盛況を呈し、来会者は一同大満足であった。

東西バプテスト女性外国伝道協会の統合

エラ・オー・パトリックがかつて書記をしていた、尚綱女学校への独身女性宣教師派遣の母体、シカゴに拠点を持っていた西部バプテスト女性外国伝道協会(Woman's Baptist Foreign Missionary Society of the West, **WBFMSW**)は、東部マサチューセッツに拠点を持つバプテスト女性外国伝道協会(Woman's Baptist Foreign Missionary Society, **WBFMS**)と統合され、1913(T2)年、アメリカン・バプテスト女性外国伝道協会(Woman's American Baptist Foreign Mission Society, **WABFMS**)となった。

4.7 第三回目の帰米

宣教師たちは、数年に一度は休暇帰国することになっていた。それは自分たちを派遣し経済的精神的に支えてくれている伝道協会や各教会に赴き宣教報告をするためである。この期間は休暇も兼ねているが、継続して支援を受けられるように、各教会を巡回することが重要な任務であった。

ブゼルは1919(T8)年7月に第三回目の帰米のため仙台を離れた。しかし帰国の途についたのは、同年8月に尚綱女学校に退職届を出してからであった。

この間、尚綱の主事として働いていた千葉勇五郎氏は、秘かに米国に手紙を書いた。その内容は、仙台の情勢がブゼルにとってよくないこと、次回来日したときは仙台以外の伝道地を選択するのがむしろ賢明であるというものであった。

ブゼルの帰米後、尚綱では記念図書館にあったブゼルの写真が取りおろされ、どこかに打ち捨てられたという事件が起こった。ブゼル自身も予想しないことであった。

第三回帰米
1919.7-1920.12

アニー S. ブゼル

翌年 1920(T9)年 12 月にブゼルは再び来日した。横浜や東京では歓迎会まで催された。しかし、仙台に入り久しぶりに尚綱の校舎に入ったときは「針の筵に坐る心地であった」と栗原は書いている。

栗原基『前掲書』
p.457

その後、二、三日は仙台に滞在したようであるが、ブゼルは懐かしい仙台に別れを告げ、急いで新しい赴任地である岩手県遠野へ向かった。花巻から当時ベビー・トレインと呼ばれた軽便鉄道に揺られながら三時間かかってようやく遠野に到着した。どんな思いでブゼルは尚綱と仙台をあとにしたのであろうか。当時のブゼルの心境を知る手がかりとして、遠野赴任後に山田光秀牧師(仙台浸礼教会)に宛てた手紙がある。そこには次のように書かれている。

ここに来て私は誠に仕合せで感謝に溢れて居ります。…ここでは暖かき歓迎を受けました。(1920.12.26)

今から後、私が日本、特に長年心を尽くして愛した都・仙台に帰ってからなめた苦難はことごとく忘れるつもりであります。私は仙台を愛します。私はその教会を愛します。私は尚綱を愛します。そして毎日御一同のために祈りましょう。(1921.1.24)

4.8 遠野時代



遠野教会と国舎

遠野におけるキリスト教の伝道は、1892(M25)年 8 月から中島力三郎牧師によって始められていた。従って、ブゼルは遠野教会に迎えられた形になる。

彼女はさっそく町の東部にある穀町に、かなり大きな日本家屋を見つけ住まいとした。人口八千人の遠野における彼女の使命は、まず幼稚園を開設して、できるだけ早く教会に接続した建物を建てて、そこを遠野における伝道事業の中心地とすることだった。

ブゼルの赴任に伴い、仙台から庄司惣兵衛が同行していた。彼女の遠野での新しい伝道活動を支えてしばらく手伝うためだった。しかし、やがて家族を呼び寄せるまでになった。また、三宅はるという女性も幼稚園事業のために遠野までやってきた。そして、翌年の 1921(T10)年 4 月、遠野聖光幼稚園が遠野教会

内に開設された。ブゼルが遠野に赴任して三ヶ月後である。そして、その翌年 1922(T11)年 12 月 28 日、岩手県知事より幼稚園の認可を受けている。翌年からは英語学校、バイブル・クラス、家庭会なども始めている。



1922(T11)年認可前卒園生（遠野聖光幼稚園）

アメリカに宛てたブゼルの手紙

仏教の寺院と神道の神社は立派に保存されています。私たちは是非人目を引く立派なキリスト教事業中心部を設けたいのです。若き人々は両親の信奉したものよりも何かもっと宗教的に内容のあるものを欲しがっています。それ故私共が彼らにキリスト教を研究する機会を提供するのは、至って当然な事であります。

ブゼルは幼稚園の幼児を通して、遠野の家庭と両親とに呼びかけ、あらゆる社会層に光を当ててキリストを伝えていこうとした。幼稚園に行けない貧しい農家の子どもたちに対しては、1930(S5)年 7 月から下組町の水曜幼稚園を開設し運営した。

彼らの働きは遠野の幼稚園から、農民を含めた遠野の住民の生活全部に接触し浸透していった。しかし、ブゼルは血圧が高く、還暦あたりから肥満になり、リウマチに悩むようになった。

遠野に移ってからも、ブゼルは仙台で世話をしていた学生に対する学資支援を継続していた。また、遠野での幼稚園を創設するにあたって相当苦心していた。それはフローレンス・ハリス女史に宛てた手紙からよく分かる。もし故国にいる友人たちからの多大な経済的援助がなければ、ブゼルの遠野での活動は制約され実現しなかったであろう。栗原基は次のように書いている。

心血を注いだ書簡は次々に郷里に送られて、友人知己や教え子の日本に対する同情の念を涵養し、先生の聖業を分に応じて支援するに至ったことは、注意すべき事実であって、先生をして時に孤立無援の感あらしめている折柄、どれ程これが大きな慰安となり、奨励となって、歓喜と感謝に溢れさせたかは察するに余ある。其の間に先生の楽しみ夢が次第に現実となりつつある。

栗原基『前掲書』
p.480

1921(T10)年 8 月 5 日
付で故郷にいる妹ジェニーに送られた手紙

1929.5-1930.7 は帰米のため久慈のタマシン・アレンが園長を代行した。

栗原基『前掲書』
p.495

4.9 晩年と永眠

ブゼルの日本永住を決意していた。山田牧師夫人に書いた手紙にも、「自分の亡骸を多くの愛する人々と共に北山に埋めてほしい」と伝えていた。

1926(T15)年 11 月 13 日に東京の三崎会館で還暦祝賀会が行われた時から、ブゼルが日本を永住の地とするのであれば、邸宅を造って差し上げようと言うことになった。宣教師は 65 歳定年。1929(S4)年の第四回目の帰米を最後に引退することは明らかだった。

1932(S7)年、ブゼルのために仙台に家を作る提案が発起人の一人山田牧師からなされ、同窓生やその他教え子たちによる募金は直ちに目標額を突破した。1933(S8)年 12 月 3 日尚綱女学校講堂で仙台の新邸宅贈呈式が行われた。

しかし、遠野での事情はブゼルの仙台行きを簡単には許さなかった。ブゼルは頻繁に来仙するたびに新宅に宿泊し、なるべく人に迷惑をかけないように少しずつ荷物を運び入れた。「先生はなるべく人々に迷惑をかけないで済むように転住しようと注意されたのである」と栗原は『ブゼル先生伝』に書いている(p.604)。そして 1935(S10)年 7 月 24 日、ブゼルはやっと仙台に落ち着くことができた。

しかし翌 1936(S11)年 2 月 5 日、風邪により肺炎を併発し、皆が讃美歌を歌い祈祷する中、ブゼルは臨終した。

告別式は 1936(S11)年 2 月 8 日に尚綱女学校講堂で行われた。台湾や満州のような遠方から、またあらゆる階層から、五百から六百名が集まった。翌 9 日の日曜日には仙台浸礼教会で記念礼拝があり、午後は北山にある輪王寺の教会墓地に約百名が集まって埋葬式が行われた。

4.10 記念事業

その後まもなく尚綱女学校の安藤謙助校長を会長とするブゼル先生記念事業期成会が生まれ、次の三つの事業が計画された。

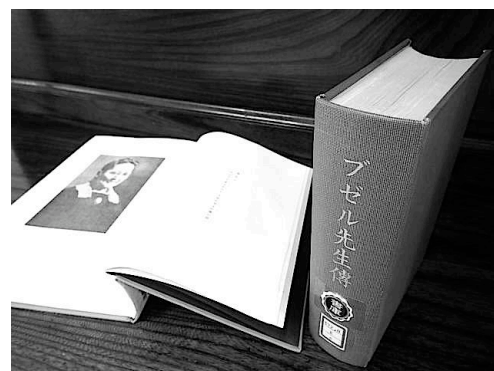
- 1) ブゼルの墓を立てること
- 2) ブゼルの胸像を造ること
- 3) ブゼルの伝記を出版すること

早速各事業は着手され、翌 1937(S12)年 11 月 23 日に自然石の墓碑が建てられた。翌 1938(S13)年 8 月 3 日のブゼルの誕生日には、遠野町の聖光幼稚園庭の前に胸像が立てられ除幕式が行なわれた。そして、1940(S15)年 11 月 23 日、栗原基著『ブゼル先生伝』(全 884 頁)が出版された。



墓碑銘

わが父は今に至るまで働き給う、我もまた働くなり。
ヨハネ福音書 5:17



5. エラ・オー・パトリック・ホーム

ELLA O. PATRICK HOME



5.1 略史

- 1896.1.29 広瀬町校地献堂式 (1903 校舎増築)
- 1922-1930の間に外壁のモルタル化
- 1964 北側へ移築
- 1966 屋根材の鉄板葺き化
- 1997 都市景観賞受賞
- 2008 解体
- 2010 ゆりが丘に復元、宮城の洋館建築としては9番目の古さ

5.2 エラ・オー・パトリックのプロフィール

- 1846年2月28日生まれ
- 2歳で熱病 (生涯腹痛に悩まされる)
- アメリカン・バプテスト教会の敬虔な信者
- 海外の女子教育や伝道に強い関心
- 1892年11月12日没(46歳)
- 当時、アメリカで募金運動が行われており、ご遺族から多額のご寄付を頂くこととなった。



5.3 建築概要

- 本学最初の自前校舎
- 木造2階建て
- 竣工：1896年1月29日 (献堂式)
- 建物名：エラ・オー・パトリック記念館 (ホーム)
- 建築責任者：ハンブレン師
- 設計者：外国人
- 工事：日本人
- 1階：4室、約136㎡ (北側廊下・トイレを含まない)
- 2階：4室、約139㎡ (階段を含む)
- 延べ床面積：約276㎡
- 保存部分：1、2階とも約40坪 (約132㎡)

1階平面図



5.4 建物の用途

当初は主に宣教師の住居として使用された。

建設時：1階：応接室、校長室、礼拝室、食堂

2階：ブゼル先生私室・書斎、ミード先生私室。ブゼル先生のバイブル・クラスもここで行われた。

その後、教室、図書館、学生寮、舎監宿舎、同窓会室、倉庫として使用された。

- ・創建時と解体前の外観の違い
- ・限界だった建物の老朽化

2階平面図



5.5 復元方針

理念：建物自体が尚綱の建学の精神を表すシンボルである。

利用方法案：①小規模な礼拝を行う、②展示物を置く

その他の使い方：教室、ゼミ室、会議室、礼拝堂、喫茶店等も検討したが、管理や設備面から難しいことがわかり、断念。

材料の再利用方針

- ・再利用：
 - 階段、暖炉、屋内建具（扉、窓、鎧戸、金具）、カーテンボックス、廻り縁、巾木、1階の寄木床（1・2階の床材を再利用）
- ・模写復元：
 - 屋外装飾、屋外建具（扉、窓、鎧戸）、2階床材（蝶番は同じデザインがなかった）
- ・資料から再現：
 - 屋外装飾の一部、ベランダ、屋根、外壁、屋根飾り、煙突、基礎
- ・想定で復元：天井、色彩、
- ・新設・改変：トイレ、2階倉庫、モジュール
- ・復元しない：
 - 洗面所、暖炉の火回り、漆喰壁→建材、屋外窓の上下、追加されていた1F出窓と2F窓
- ・調査後決定：構造体（柱、梁、小屋組等）一部保管したがほぼ廃棄
- ・施工の様子

5.6 建築的特徴



(1) 外観

コロニアルスタイル

下見板張りの外壁

玄関上部装飾

南側小ベランダ装飾

建具（鎧戸、上げ下げ窓、玄関扉）

大ベランダ建具、手すり

屋根、屋根飾り

煙突

基礎

尚綱学入門

- | | |
|-----------------|---------------------|
| (2) 内部・内装・暖炉 | 廻り縁、ドアまわり、付け鴨居、腰壁縁切 |
| 階段 | 中木 |
| 内部建具（ドア、窓）とその周囲 | ガラス |
| 暖炉 | カーテン |
| 床 | カーテンボックス |
|
 | |
| (3) 建築小物 | |
| ドアノブ | 蝶番（大・小） |
| 鎧戸留め | 丸落し |
| 階段装飾 | 窓の鍵 |
| ドア枠 | 鍵 |
|
 | |
| (4) 家具備品 | |
| 照明 | |

5.7 エラ・オー・パトリック・ホームの不思議

(旧不思議)

- ① 2階に窓
- ② 1階に出窓
- ③ 玄関脇の窓が扉だった時代がある（←玄関化）
- ④ 2階床に切れ目（←移転時に2分割）
- ⑤ 玄関に下がり壁（←二重扉だった）
- ⑥ 柱の太さ（←実際は太くなかった）

(現不思議：未解決、迷宮入り?)

- ⑦ 外壁の色
- ⑧ 2F物入れ下の隙間
- ⑨ 玄関左手の中木に切れ目
- ⑩ 玄関右のへこみ
- ⑪ 同窓会室の白い塗装
- ⑫ 設計者、施工者
- ⑬ ドアノブはどれ?
- ⑭ 天井、照明
- ⑮ 洗面所の意匠
- ⑯ 食堂の壁にドアがあったはず
- ⑰ 二重天井か?

5.8 服部英太郎・文男遺文庫

尚綱のブゼル先生

→ バイブル・クラス（吉野作造、内ヶ崎作三郎、栗原基）ら

吉野作造→ 教え子（服部英太郎東北大名誉教授、経済学部長、福島大学長）

→ ご子息（服部文男東北大名誉教授、経済学部長）

↓

・服部栄太郎・文男遺文庫（社会思想史、ご遺族から寄贈）

洋書 約3500冊 → 4,156冊 和書 約2500冊 → 2,333冊

東大時代の講義ノート（吉野作造先生のPolitical History他）など

（和書等の14,000冊は中国の名門、精華大学に服部文庫として寄贈）

中庸

6. 中庸

6.1 四書

四書とは、儒教の経書（経典）のうち『論語』『大学』『中庸』『孟子』の四つの書物を総称したものである。朱子（朱熹）によって儒教の代表的経典とされた。『論語』は孔子と弟子たちによる言行録、『大学』は孔子の門人の曾子(そうし)の作とされている。また、『中庸』は曾子の門人の子思の作、子思の門人に学んだのが孟子とその弟子たちの言行録が『孟子』である。

朱子(1130-1200)
孔子(前 552-479)
曾子(前 505-435)
子思(前 483-402)
孟子(前 372-289)

儒教は一般に「修己治人」の教えといわれ、「己自身を修める」道徳説と「人を治める」政治説を兼ねた説教と言われている。この四書を学ぶことによって、儒教の正統的な血脈がそのまま会得できると説明された。四書のうち『大学』は「初学入徳の門」としてまず始めに学び、『中庸』は最も深遠なものとして最後に学ぶべきものとされている。

6.2 中庸の精神

「中庸」という言葉は、四書の一つとして有名であるだけでなく、一つの徳目ないしは生活態度を表す言葉として今も生きている。「中庸」よりも「中道」と言ったほうが分かり易いかもしれない。つまり、人間が世の中で暮らしていく上で、極端に走らず、程良い中を取っていくという生き方である。

『論語』の中では、「中庸の徳たるや、それ至れるかな」と孔子に賞賛されたのがその最初の出典であり、儒学の伝統として長く尊重されてきた。

『中庸』第2章には次のような君子（人格者）の道を説く言葉がある。

仲尼曰。君子中庸。小人反中庸。君子之中庸也。

君子而時中。小人之反中庸也。小人而無忌憚也。

意味は、次の通りである。

君子は中庸の徳を守るが、つまらない小人は中庸(の価値が分からないので)それに背くものである。君子が中庸を守るといのはいかにも君子らしい立派な振る舞いでいて、その上どんなときにでもその場に依じて中でおれるからだが、小人が中庸に背くというのは、いかにも小人らしいつまらない行動をとって、しかも慎みを知らない過激さで何でも当たり構わずやってのけるからである。

このような思想は中国に限ったことではなく、古代ギリシャにも見られる。アリストテレースはメソテース(μεσότης)という言葉で、この中庸の精神を尊重している。

Ἀριστοτέλης
(前 384-前 322)

中庸の精神（メソテース）

…運動の過超もその不足も、ともに体力を喪失せしめ、同じくまた飲みものや食物が多きにすぎ少なくにすぎるとは健康を喪失せしめるものなるに反して、それが適正なら健康を創成し増進し保全するのだからである。節制とか勇敢とかその他もろもろの倫理的な徳の場合においてもこれと同様である。

すなわち、あらゆるものを逃避しあらゆるものを恐怖して何ごとにも耐えないひとは法懦となり、また総じて、いかなるものも恐れず、いかなるものに向かって進むで行くならば無謀となる。同じくまた、あらゆる快楽を享樂し、いかなる快楽をも慎まないひとは放埒となり、あらゆる快楽を避けるならば、…いわば無感覚なひととなる。かくして節制も勇敢も「過超」と「不足」によって失われ「中庸」(メソテース)によって保たれる(1104a) …中庸(メソテース)とは、だが、二つの悪徳の、すなわち過超に基づくそれと不足に基づくそれとの間における中庸の謂いである。そしてさらにこのことは、「情念や行為において一つの悪徳は然るべき程度に比して不足し他の悪徳はそれを過超しているのに対して、徳は中を発見しそれを選ぶ」ものなることに基づいている。徳は、それゆえ、その実体に即して言えば、またその本質をいい表わす定義に即していえば「中庸」(メソテース)であるが、しかしその最善性とか「よさ」とかに即していうならば、それはかえて「頂極」(アクロテース)にほかならない…(1107a)。

『アリストテレス ニ
コマコス倫理学(上)』
(高田三郎訳)、第二卷二
章、六章、岩波文庫
1971年 p.59-60, 71-
72

6.3 衣錦尚綱



尚綱女学会がキリスト教主義の学校であるにもかかわらず、儒教の經典『中庸』から校名「尚綱」を選んだ経緯については前述の通りだが、ここではその「尚綱」という言葉について、前後の文脈から味わってみよう。

詩曰。衣錦尚綱。悪其文之著也。故君子之道。闇然而日章。小人之道。的然而日亡。君子之道。淡而不厭。簡而文。温而理。知遠之近。知風之自。知微之顯。可与入徳矣。

詩(し)に曰く「錦(にしき)を衣(き)て綱(けい)を尚(くわ)う」と。其の文(ぶん)の著(あ)ら(ら)わ(る)る(を)悪(にく)む(なり)。故に君子の道(みち)は闇然(あんぜん)として而(しか)も日(ひ)に章(あきら)かに、小人(しょうじん)の道(みち)は的然(てきぜん)として而(も)日(ひ)に亡(ほろ)ぶ。君子の道(みち)は淡(たん)にして而(も)も厭(いと)わず、簡(かん)にして而(も)も文(ぶん)あり、温(おん)にして而(も)も理(り)あり。遠(と)お(お)き(の)近(ちか)き(を)知(ち)り、風(ふう)の自(よ)る(を)知(ち)り、微(び)の顯(けん)なる(を)知(ち)れば、与(とも)に徳(とく)に入(い)る可(か)し。

島田虔次『大学・
中庸』新訂中国古
典選第4巻、朝日
新聞社1967年

以下、この解説を『尚綱女学院七十年史』から引用しよう。

「尚」は加えると読む。「綱」は褻と同じで、うすものである。「錦をきて綱くわう」とは、身に錦をきても、決してこれを外観に誇ることなく、うすいうちかけを掛けることである。これは君子の人柄、心構え、その在り方を卒直簡明に表現した言葉である。女がややもすれば綺麗な衣裳を着飾って、これ見よがしにでらうはしたなさをにくんだ言葉である。

君子の道は、暗まして表さないが、日に明らかである。これに反して小人の道は、はっきりしている様だが、漸次に消え失せるものである。君子は常に淡々としてその身を処しているから、少しも俗臭嫌気がなく、又無駄な煩わしさもなく、至って卒直簡単である。しかし、そこにまた却って言うに言われぬ渋い美しさを感している。またよく人を受け容れる温い愛情があふれていても、そこには、ちゃんとした道理を通して、決して情愛に溺れることはない。

以上は中庸の句の大意であり、わが校の校名は実にこの句に由来するのである。

7. 吉野作造



7.1 生い立ち

1878(M11)年1月29日、宮城県志田郡大柿村(現在の大崎市古川)で糸綿商「吉野屋」の長男として生まれる。高等小学校一年生のとき、押川方義から洗礼を受けた「斎藤英和辞典」で有名な斎藤秀三郎を講師に招いた英語講習会で、キリスト教に関心をもった。中学進学のため仙台に出る吉野作造等に入学祝として町の有志が国語辞書「言海」を贈った。吉野が入学した尋常中学校の初代校長だった大槻文彦が完成させた辞書である。

父親年藏から「作蔵」と名づけられたが小学校時代から自分を「作造」と書いている。正式改名は帝大教授として活躍していた1917(T6)年であった。家業を継がないことが分かっていたことが改名した理由の一つだった。

7.2 キリスト教への入信

中学校を首席で卒業した後は、文科の哲学科への入学を志していた。しかし偶然に第二高等学校法科に入学した。東北学院長の押川方義の「修身講話」を聴き、キリスト教に関心を持った。同じ頃、ブゼルのバイブル・クラスに入る。

田澤晴子『吉野作造 人世に逆境はない』P.31-32

吉野が入会した当時の参加者十四名中、十三名が二高生であった。栗原基、土井亀之助、内ヶ崎作三郎、三浦吉兵衛、小山東助などがいて、このクラスこそ後の大正デモクラシーの担い手たちとなる二高生たちの交流の場であった。バイブル・クラスは1893(M26)年から1919(T8)年まで続いた。

今はユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自主もなく、男も女もなし、汝らは皆キリスト・イエスに在りて、一體なり。(ガラテヤ人への手紙 3:28 文語訳)

クリスチャンとしての熱誠溢れる人格と言葉、そして男女共に時代の要求に応じて働く人物を養成するというブゼルのキリスト教主義的教育方針こそ、人生の指針を模索していた吉野にとって導きの糸となった。1898(M31)年7月、3年生の内ヶ崎、島地雷夢と一緒に、1年生の吉野が洗礼を受けた。

ブゼルの聖書講義

…講義は「信仰的であり福音的のもの」だったという。それはブゼルの人格からあふれ出る言葉を中心とするものであった。

…ブゼルは教育について、「単なる物知りであるという男女を養うのではなくて却って働ける人物即ち自己の生存する時代の要求に応ずる事の出来る者を養うこと」、両性に共通の「人格を養成する事」が肝要だと主張していた。

田澤『前掲書』p.32
「女子と教育」『河北新報』1909(M42)年3月3日

7.3 宗教と科学の衝突

復活や奇跡と科学との折り合いの問題は当時の学生にとっては大問題であり、盛んに論じられた。吉野はこの大問題に悩まされながらも、キリスト教への信仰の道を選んだ。

内村鑑三は、宗教と科学の二者択一の立場から科学を全否定した。吉野は科学的合理性への志向をもっていたので、このような態度は取れなかった。二高3年のときの「宗教と科学」と題する講演で「宗教の舞台は根本原理全体にして、科学はその意志の一部にすぎない。故に科学的の知識をもって宗教を律するは誤れり」と主張した。

7.4 経世の志

吉野は積極的に二高の学内誌『尚志会雑誌』の編集等の活動をしてきたが、「厭世的傾向」を持つ日本の文学を否定し、文学へ沈溺する仲間たちとは決別を宣言し、経世の志を持つべきであると主張した。この主張を支えていたのは、人生の指針を授けられたキリスト教信仰なのである。

田澤『前掲書』p.40

7.5 結婚と東京帝大入学、社会主義者との距離

二十歳で高校卒業と同時に、当時職業婦人としては先駆的存在であった小学校教師阿部たまのと結婚。卒業後東京帝国大学法科大学に入学。父親は古川町長になった。

吉野は、「結婚と恋愛」という文章の中で、恋愛とは、お互いに「心身の全霊を捧げても悔みずとするまでに没頭し得る相手方を見出すことであり、「全人格の信認傾倒の関係」である。そしてその到達点が結婚だとした。この宗教的感情を帯びた恋愛結婚の肯定は、吉野の実体験に基づくものであろう。

清教徒的キリスト教信仰に燃えていた吉野は、社会主義者たちの自堕落な生活に嫌悪感を覚えた。思想内容よりも社会主義者たちの人間性や生活態度を問題とした。

田澤『前掲書』p.42-43
『中央公論 1923(T12)
年5月号巻頭言

7.6 福音主義論争

洗礼を受けた浸礼教会の説教に不満を持っていた吉野は海老名弾正の自由主義的神学、「キリスト降世の目的は人類を導いて神人合一の境涯に至らしめること」という合理主義的なキリスト理解に共感し、浸礼教会を脱して組合教会本郷教会に転じた。当時、本郷教会は「書生の教会」と呼ばれていた。

海老名弾正 (1856-
1937)

7.7 在外研究

1905(M38)年、大学院で研究を続けていた吉野は、袁世凱の息子の家庭教師を依頼された。天津、瀋陽に三年間滞在後帰国し、東京帝国大学の助教授を拝命した。

1910(M43)年1月、政治史および政治学研究のため、満三年のドイツ、イギリス、アメリカへの留学命令が文部省から出た。現地では必ず語学教師を雇い、生きた言葉を学んだ。それは異文化社会とコミュニケーションをもち、社会を内面的に理解するためであった。

吉野は、留学を通して、キリスト教における社会活動の重要性に目覚め、宗教と政治との奥深いつながりを認識した。また民主政治の根底にキリスト教精神が存在していると確信するこ

田澤『前掲書』p.89-90

とにより、吉野の政治学には倫理的性格が根づくことになった。

吉野は更に民主運動を「解放」という近代政治の一大潮流のなかに位置付けるようになった。欧米の民衆運動の周到で冷静なあり方を知り、民衆運動のもつ政治的意義やその役割性を理解したのである。

同上 p.99-100

7.8 「民本主義」の主張



吉野は『中央公論』1916(T5)年1月号の巻頭論文「憲政の本義を説いて其の有終の美を濟すの途を論ず」の中で「民本主義」を主張した。それは「近代の立憲国共通の精神的根底」であり、国民主権を意味する「民主主義」や「平民主義」とは異なるものであった。

本資料 8.2～8.5、p.40～41 参照

吉野作造の主張

- ・デモクラシー：新しい国家生活においては、「人間の能力を自由に展開させること」が最も重要な政策となる。この政策を総称して「デモクラシー」或いは「民本主義」と表現する。
- ・純政治的要求：国民の政治への参加。普通選挙実施をめざす。
- ・社会的要求：精神生活の自由と向上を図る文化政策、貧富の差をなくし日常生活を安楽にする社会政策。社会主義も組み入れる。

民本主義を、民主主義と切り離れたところに吉野の主張があり、その後の論争の中でも最も問題にされた点である。

吉野は「民本主義」を各国の憲法や政治事情を超えて存在しうる政治運用上の方針であるとした。それは、主権の所在を問わず、「主権を行用するにあたって一般民衆の利益幸福並びにその意向に重きを置くといふ主義」である。それには二つの内容がある。第一に「政権運用の究極の目的は『一般民衆

の為め』、といふこと」つまり誠二は国民の利益幸福を目的とすることである。第二に「政権運用の終局の決定を一般民衆の意向に置くべきこと」すなわち普通選挙制度の主張である。

「民本主義」をこそ重要だとする吉野の主張には三つの意味があった。

一つ目は、天皇主権という大日本帝国憲法の枠内においても十分に成立しうる政治方針であるということである。…二つ目は「民本主義」という言葉により、危険思想視を回避しようとしたことである。…そして三つ目に、吉野は「民本主義」の普遍的性質を明らかにした。それは近代的世界的な思想潮流の政治的表現である。その潮流とは、弱者が強者からの物質的精神的解放を目指すというもので、その根底には個人の価値を尊重するというキリスト教精神があると吉野は考えていた。

吉野作造が思考と行動の基盤としたのは「民衆」の存在であった。吉野作造は「民本主義」の普遍的性質を明らかにした。それは、弱者が強者からの物質的精神的解放を目指すものであった。根底に「個人の価値」を尊重するというキリスト教精神があった。1920(T9)年頃から吉野は「民本主義」よりも「デモクラシー」を多用した。そこには実質的国民主権を主張する含意があった。

田澤『前掲書』
p.112-113

キリスト教と民本主義

吉野作造の民本主義論の基底に一貫して流れるものはキリスト教信仰であり、キリスト教的人道主義の立場を基礎としているといっても過言ではない。

吉野の信仰上の師である海老名弾正は、「神の前で人はすべて平等であり、兄弟姉妹であるし、これらの人々の共同生活は真個のデモクラシーである」とし、デモクラシーの形成にはキリスト教的な人格主義が必要であると説く。

吉野は「デモクラシーの本質は人格主義」であるとし、デモクラシーの拠って立つ処の理論的根拠は人格主義にあるとした。デモクラシーが徹底的に社会の各方面に実現するためには人格主義が人類の間に生きた信念として働く必要がある。理論はこの信念の活動力を助けるが、活動力の本源は宗教的信仰に求めなければならない。そして人格主義がその信仰の内容として著しく活躍しているのはキリスト教である。

すべての人類を神の子としてすべての人類に一個の神聖を認め堅くキリストに結んでいる。これほど確実な人格主義の信念がまたと世にあるか。故にキリスト教の信仰はそれ自身社会の各方面に現れて直ちにデモクラシーとならざるを得ないわけである。

吉野はキリスト教を基礎に置く人格主義を民本主義の基底にしていた。吉野が展開する政治論には、必ずキリスト教的教養が組み入れられ、彼の人間観や価値観が導入されている。

選挙理論にしても「政策本位」よりも「人格本位」を主張し、そのための「小選挙区制」を提唱する。また「すべての人間は神の子」であるという信仰から、資本家・労働者の階級観を超越する立場を取る。

しかし特権階級には批判を続け、天皇制絶対主義機構の中枢である軍部、枢密院、貴族院の改革を主張し、民衆政治の実現のため、普通選挙制度、政党政治論を展開した。

「デモクラシーとキリスト教」『吉野作造選集 第1巻』岩波書店
1995年

7.9 朝日新聞への弾圧と浪人会との立会演説会

大阪朝日新聞は大正デモクラシーの先頭に立って言論活動を展開し、特にシベリア出兵や米騒動に関連して寺内正毅内閣を激しく批判していた。当時、世論の激しい批判にさらされていた寺内政権は弾圧の機会を窺っており、検察当局は大阪朝日新聞を発行禁止に持ち込もうとした。

1918(T7)年8月、東京では「憂国の志士」を自任する浪人会が東京朝日新聞を批判し、村山龍平社長に白昼暴行を加えた。吉野作造は「言論自由の社会的圧迫を排す」で浪人会を批判すると浪人会は吉野作造に立会演説会開催を申し入れた。

演説会では聴衆が吉野を支持し、浪人会はこれをきっかけに衰退した。演説会の開催は知識人や大学生たちを中心とするデモクラシー運動を推進する団体を形成するきっかけとなった。歴史的にはまさしくデモクラシー気運の高まりを象徴する事件であった。

『中央公論』
1918年11月号

7.10 社会事業

東大 YMCA 理事長として、1918(T7)年、賛育会(病院)の設立、簡易法律相談所の設立、1919(T8)年、家庭購買組合(現在の生活協同組合の前身)の設立などの社会事業を行う。ほぼ同時期に、神戸でもキリスト教徒の賀川豊彦が、生協の前身である購買組合を設立していることは注目に値する。

吉野作造の人間理解

人間を人間たらしめているものは何か。動物の場合、本性が本能であるのに対し、人間の場合、それは理想であった。人間には神という究極の理想に向かって無限に向上する可能性がある。そして制度や環境を整えれば、その可能性が自由に開展する。[吉野作造は]この理想主義にもとづく人間観をもとに、生活の理想を描いた。…人間のうちにある理想的なものが機会さえあれば無限に発達していくものだという吉野の人間観が、利用者の自治を目的とする社会事業への理想を支えていた。

田澤『前掲書』p.165,
199

7.11 理想主義：普通選挙の主張

吉野は、理想は「民衆政治」だと断言し、民衆の経済的開発、精神的開発を今後の政治方針とすべきとし、選挙権の拡張と選挙区の公平なる分配を主張した。有島武郎たちと「理想主義」を掲げ、理想主義の立場から国民主権を主張した。

より理想に近い代議士を選挙で選び、間接的に政治に参加しながら、理想とする政治を実現するのである…あくまでも人はそれぞれ自律的な立場を保つ。そして不断の努力で新しいよりよき自己を探し続けながら、時と場合に応じ仮託すべき人格を変化させていく。その変化を反映させるのが多数決という方法である。定期的に行われる選挙における多数決で、変化を受け止める。…二大政党制が理想的である…仮託する代議士同士に競争をうながし、次の選挙で戦わせるのである。

同上 p.167

7.12 三一運動と五四運動への共感

吉野作造は日本の政治の矛盾が凝縮された朝鮮半島の現状をつぶさに観察し『中央公論』等で朝鮮総督府の失政を糾弾、朝鮮の人々に政治的自由を与え、同化政策を放棄せよと主張した。

在日朝鮮留学生たちとの日常的交流が 1916(T5)年 3 月の満韓旅行を実現させ、吉野の朝鮮論を転換させた。吉野は日本の植民地であった朝鮮に対する武断統治を批判した。また 1919(T8)年 3 月の反日独立運動である三一運動への共感を公にした。三一運動を受け、原敬内閣は武断統治から文化政治への転換を図ることになる。

今度の暴動が起こってから、いわゆる識者階級の評論は…他を責めるの急にして、自ら反省するの余裕が無い…我々の自己反省を欠くの態度が、今日どれだけ外交的失敗の原因を為して居るか分からない。

「対外的良心の發揮」
『中央公論』1919(T8)
年 4 月号

1919(T8)年 5 月のパリ平和会議を契機とする反日反軍閥の五四運動に共感を表明した唯一の日本人が吉野作造だった。吉野は両国国民の共同提携と社会改造運動を主張、日中知識人の交流計画を実現に移した。

祖国の恢復を図ると云う事は、日本人たると朝鮮人たると支那人たるとを問わず、普遍的に是認せらるべき道徳的立場である。ここに共通な或る最高の原理を見ると云う事が、即ち日鮮両民族の本当に一致提携すべき新境地を発見する事だろうと云うのが僕の立場である。

「朝鮮統治策に関して
丸山君に答ふ」『新人』
1920(T9)年 4 月号

森戸事件

1920(T9)年、東大助教授森戸辰男は「経済学研究」に「クロボトキンの社会思想の研究」を發表し、それに対する弾圧がなされた。吉野は特別弁護人を引き受けた。しかし裁判では負け、森戸は禁固刑、大学の学問の自由を守る態度は後退した。

森戸は戦後「日本文化人連盟」に参加し、政府内部でも進んでいた帝国憲法改正とは別に独自に改正作業に取り組み、鈴木安蔵や今中次磨を加え、1945年(S20)10月29日、「憲法研究会」を組織した。

同年 12 月 26 日「憲法研究会」は、民間の草案としては最も早く「憲法草案要綱」を公表した。GHQ は日本国憲法草案作成時に「憲法研究会」の草案を採用したのである。(本資料 p.42 参照)

7.13 関東大震災と転職

1923(T12)年 9 月 1 日に関東大震災が発生した。東大図書館火災で貴重な資料を取り出そうと炎の中に二度突入を試みるが、果たせなかった。

田澤『前掲書』p.192

新聞を通じて根も葉もないデマが広められ、政府により軍隊が出動させられ、激昂した民衆は武装した自警団を組織し、通りすがりの人を捕まえ、朝鮮人だと知るや、何の罪もない人間に暴行を与えて虐殺した。吉野はこの朝鮮人虐殺事件に憤り、1924(T13)年 2 月、東大教授を辞職し、朝日新聞社に編集顧問兼論説委員として入社した。

吉野作造

それまでは、横浜の大富豪に中国や朝鮮からの留学生の学費を出してもらっていたが、震災の打撃でその富豪がもはや支援が出来なくなったので、自らその費用をつくるため、大学教授の収入よりずっと待遇が良い新聞社に転身したのである。柳田国男も同期入社だった。

しかし、吉野作造は朝日新聞の署名入り論説『枢府と内閣』で枢密院の廃止を主張し、当局から弾圧を受けた。

政府の牽引機関としては議会だけで沢山だ。…貴族院の外に更に枢密院までを存置するは、実に屋上屋架の愚に等しい。

起訴の可能性もあり、新聞の発行禁止を免れるため、吉野は朝日新聞社を退社した。東大講師になったが、経済的には苦しい環境になった。吉野は正式退社が決定的になった 1924(T13)年6月25日に以下のように日記に書いている。

人世に逆境は無い。如何なる境遇に在りても
天に仕え人に仕える機会は潤沢に恵まれてある。
大正十三年六月念五 吉野作造

同上 p.214

逆境にあつて、ますます吉野はキリスト教への信仰とそれに基づく信念への帰依を明らかにした。大局における自らの役割を認識し、究極における世界の進歩発展を信じていた。

7.14 吉野作造と賀川豊彦の協働

1923(T12)年の関東大震災以前は二人はそれぞれ東京と神戸を中心に活動していた。賀川が関東大震災救援活動のために上京した三日後、二人は直接会い、被災者支援のために協働する。

吉野が各方面を奔走してかき集め寄附した千円を元手にして、中産階級以下の人々、特に被災者たちへの低利事業資金貸付を行う小口金融、現在の信用組合の前身である「神視社」が作られた。

信用組合の前身
「神視社」

7.15 死去

1933(S8)年3月18日、吉野作造死去。享年五十五歳。時代と正面から向かいあい苦闘した先人の姿を見る。死後しばらくは郷里でも吉野作造は偉人ではなかった。むしろ弟の商工大臣をした信次が有名であった。

1947(S22)年、片山哲社会党内閣が実現し「吉野作造」が復活し、古川には「吉野作造記念館」ができた。

「民本主義」を旗印に行動する知識人として全国に知られ始めると故郷では其の評判は悪化した。学者としての書齋人を期待していたためである。

8. 大正デモクラシー

8.1 大正デモクラシーの時代の流れ

日露戦争後の 1905(M38)年から満州事変前夜 1931(S6)年 9 月までのほぼ四半世紀を指す。

日露戦争が一方に置いて国民を帝国主義的海外発展に陶醉せしめたと共に、他方、国民の自覚と民智の向上とを促して自らデモクラチックな思想の展開に資したことは既に人の良く言うところである。

吉野作造「民本主義鼓吹時代の回顧」『社会科学』1928(S3)年所収

1905(M38)年、日露戦争終結後のポーツマス講和条約に賠償金が盛り込まれなかったことへの不満は日比谷焼打ち事件につながっていった。大正デモクラシーは、雑業層(人足、車夫、職人)と旦那衆(親方、中小商店主、中小工場主)の二つの階層が参加した民衆が構成する「帝国」のデモクラシーだった。

大正デモクラシー理解のためのトピックスとキーワードズ

○労働運動、社会主義者の活動 (荒畑寒村、片山潜、幸徳秋水)

大正デモクラシーとは、出発点においては「大日本帝国」に成り上がった明治日本が従来の構造では対応できなくなったことに由来して起こる運動の総体となっている。様々な階層により、旧来の社会構造と秩序に対抗して展開された運動である。

○日露戦争後の領土拡大

1895(M28)年台湾、1905(M38)年南樺太植民地化、1910(M43)年韓国併合

○明治の終焉

1912(M45)年 7 月 29 日明治天皇崩御。9 月 13 日大葬の礼当日の元陸軍大将乃木希典夫妻殉死に賛否両論。夏目漱石「心」。明治の精神が天皇に始まり天皇に終わる。

○第一次世界大戦開戦

1914(T3)年、ドイツ仮装巡洋艦攻撃への英国の要請で参戦。

○元京都帝大教授・経済学者河上肇「貧乏物語」

1916(T5)年「相対的な貧乏」「被救出者としての貧乏」「肉体の健康的維持が困難に貧乏」の三分類中、第三の貧乏を扱った。貧乏問題は分配ではなく、生産にあるとし、重要な事業を「官業」とする国家経営をすべ

きであると説いた。

○第一次世界大戦期の社会変立身出世の新たなシステムとして受験が社会に組み込まれた。

○主婦の自覚

中流家計を対象とした雑誌「主婦之友」創刊。当時の規範は、女性は家庭に従事すべきというものだった。

○1918(T7)年夏の米騒動

米価格高騰に加え夏場の端境期で供給不足、シベリア出兵の為の買占め、売り惜しみが横行し、日本海沿岸で船で積み出される米の阻止を図り女性が集団で役場や詰め所に押しかけた。

○平民宰相 原敬・政党内閣の実現

1918(T7)年 9 月 27 日内閣成立 1921(T10)年 11 月 4 日暗殺

○1919(T8)年、雑誌『改造』創刊

「改造」はこの時期を代表する言葉だった。賀川豊彦、『死線を越えて』で大病を克服した主人公がスラムで布教活動を行う経験を描く。植字工が涙を流しながら活字を組んだ。

○地域の文化活動

1921(T10)年、市民の手によ

って作られた自主教育機関「信濃自由大学」が誕生し、広まった。全国の農村青年が組織した初の文化、教育活動であった。

○北原白秋が文部省唱歌を批判 子どもを型にはめて個性を圧すると自由学園(羽仁もと子)、明星学園(赤井米吉)、文化学院(西村伊作)らが大正自由教育を展開した。

○韓国独立運動

1919(T8)年 3 月 1 日、三一運動への憲兵隊による弾圧。吉野は運動に共感を寄せた。

○全国水平社結成

1922(T11)年 3 月 3 日、被差別部落解放を目指す全国水平社結成。日本最初の人権宣言「水平社宣言」が読み上げられた。

○植民地統治論

第一次世界大戦後は「武断統治」から「文化統治」へ転換した。大学でも植民政策学が講じられた(東京帝国大学、新渡戸稲造。後任が矢内原忠雄)。

○関東大震災

1923(T12)年 9 月 1 日午前 11 時 58 分 M7.9 中央気象台地震計の針が振り切れ飛び散った。一府六県 3,404,898 人が被災した。死者 91,344 人、その内、火災によるものが 75,953

大正デモクラシー

人。重軽傷者が 52,084 人、行方不明者が 13,275 人。東京の市街地の 44%が消失した。「朝鮮人が危険」のデマが流され、6,000 人を越える朝鮮人が虐殺される。虐殺が起きたのは荒川周辺など朝鮮人と職を競合する地域に多かった。

○『女工哀史』

細井和喜蔵、1924(T13)年紡績工場のルポを雑誌『改造』に発表、翌年単行本として改造社から刊行し、注目を浴びた。

○世界恐慌

1929(S4)年 10 月 24 日、「暗黒の木曜日」。米国で株の大暴落が起こり、アメリカ全土に失業と貧困が広がった。

小林多喜二、酷使される労働者を群像として描いた『蟹工船』発表後、発禁処分を受け、1930(S5)年に不敬罪で追訴。

1930(S5)年は豊作で米価は下落、翌年には凶作飢饉、東北地方の農村を中心に恐慌は本格化し、娘の身売り話が出た。

沖縄では「ソテツ地獄」と呼

ばれる惨状が展開していた。ソテツは飢饉時の非常食とされるが、有毒成分を含み、調理が不十分なときには腹痛や嘔吐を惹き起こし死に至ることもある。

○民本主義

「民本主義」は「立憲」「憲政」などの語と共に democracy を考察した新造語として用いられている。この語は各人各様に用いられ、はっきりとした定義がなかった。

8.2 吉野作造の民本主義

吉野は『中央公論』に百頁を超える論文を発表した。成熟した国民の存在を前提とした上で、「立憲政治」という憲法を以ってする政治について論じ、その立憲政治の根本に民本主義を置く。吉野は民本主義を「一般民衆の利益幸福ならびにその意向に重きを置くという政権運用上の方針」と定義した。

吉野は民本主義を democracy の訳語とする。もう一つの訳語「民主主義」は「国家の主権は人民に在り」というもので、君主国日本には相応しくないとして斥ける。吉野は民本主義を主権の存在ではなく、主権の運用の概念とした上で、政治の目的を「一般人民の幸福」に置き、政策の決定は「一般人民の意向」によるものとした。

「主権」が天皇にあることを前提とし、「人民のための」政治、「人民の意向」を重視する政治として、民本主義が提唱された。民本主義とは、「国民」を基点として、立憲君主制下、大日本帝国憲法の運用によって政治及び社会の改良を図る議論であった。

1916(T5)年 1 月号、本資料 p.34 以下参照

立憲君主制下の主権の運用の概念

8.3 民本主義への批判

民本主義の歴史的な評価が揺らぐのは、内政的には自由主義を主張しているが、それが国家主義と結びつき、対外的には植民地領有や膨張主義などを容認し、帝国主義とのきっぱりとした態度がとりにくいためである。いわば民本主義は一国デモクラシーであった。日露戦争後、台湾や南樺太の植民地化がなされ、韓国併合がなされた。

山川によれば、デモクラシーとは階級闘争を伴うものであった。民主主義の到達を当然視する立場からすれば、吉野の主張は資本家階級のための「ブルジョア民主主義」だと断罪された…国家主義者からの批判に対しては…応える一方で、山川や大杉の批判に対しては、直接応答していない。…吉野自身は、おしる社会主義や無政府主義にある種の親近感を抱いていた。そして吉野なりの方法で理解し近づこうと試みていたのである。

田澤『前掲書』p.120-121。大杉栄「盲の手引きをする盲—吉野作造の民主主義墮落論」『文明批評』1918(T7)年 2 月、山川均『社会主義の立場から—デモクラシーの煩悶』三徳社 1919(T8)年 6 月

8.4 大正デモクラシーの限界

日露戦争後の都市民衆騒擾をきっかけに民本主義の潮流として台頭した大正デモクラシーは第一次世界大戦とロシア革命、米騒動により加速し「改造」の動きを生み出した。

雑業層や旦那衆、労働者・農民、或いは女性、被差別部落や植民地の人々がそれぞれの立場からアイデンティティを掲げ、社会変革を訴えた。

こうした動きにより 1925(T14)年、大正デモクラシーの二大政治目標で成立していた議院内閣制と残りの一つだった普通選挙が実現したが、抱き合わせに「治安維持法」が姿をあらわし、普通選挙法と治安維持法によるいわゆる「1925 年体制」が創出される。

1931(S6)年 9 月、広東軍が引き起こした柳条湖事件に端を発する満州事変は、大正デモクラシーの転換を促した。吉野作造は新聞論調が「一律に出兵謳歌」に傾いていることを批判している。満州事変は、日本社会の対立を先鋭化させる傍ら、対立と対抗の存在を解消し、消去してしまう論調を作り上げた。大正デモクラシーの限界であった。

成田龍一『大正デモクラシー — シリーズ 日本近現代史 4』岩波新書 2007 年 p.237

治安維持法
普通選挙法

柳条湖事件
満州事変

8.5 鈴木安蔵を通じて戦後の日本国憲法へ



鈴木安蔵『憲法学三十年』評論社より

吉野作造の唱えたデモクラシーの政治思想そのものは、その弟子、鈴木安蔵が執筆した「憲法研究会」案を通して、戦後の日本国憲法へと受け継がれていった。

京都大学で河上肇の教えを受けた鈴木安蔵が、1933(S8)年 1 月 8 日と 3 月 5 日の二回にわたって、吉野作造を訪問し、憲法研究の教えを請うた。鈴木は栗原基の長女俊子の夫であり、栗原の紹介である。鈴木は治安維持法違反で二度の投獄を経験していた。

鈴木は吉野の影響を受け、吉野の示唆に従って憲法研究を進め、「憲法研究会」を主宰した。敗戦後 GHQ は、新憲法制定の際、鈴木が起草した「憲法研究会」案が最も自由主義的であると評価し、草案は新憲法制定の基礎になった。この意味で吉野のデモクラシーの思想が新憲法にも大きな影響を与えたのである。

鈴木安蔵(1904-1983)
憲法研究会

吉野作造への献辞

鈴木安蔵が以下のように、1933(S8)年 6 月に公にした「憲法の歴史的研究」で吉野に対する献辞を述べている。

研究を大成させることによって…先生の理論的遺産を継承し発展せしめることを念願する。

1933.3.18 鈴木安蔵

9. メリー D. ジェッシーと尚絅女学院

9.1 女子高等教育のヴィジョン



ジェッシー校長任命 (1919年)

メリー D. ジェッシーは、米国ヴァージニア州エッピングフォレストの農場主の家に、十一人兄弟の長女として生まれた。生家の建物は、米国初代大統領ジョージ・ワシントンの母方の実家から譲り受けたものであったという。ミズーリ州立大学で地質学を専攻、学生ヴォランティア活動に参加したことがきっかけで、宣教師になろうと志した。

高校と大学の教員免許を得て卒業し、さらに物理学を修め、1912(M45)年に WBFMSW の宣教師として尚絅に赴任した。その後、1917(T6)年、米国に戻り、コロンビア大学で宗教学の修士号を取得し、1919(T8)年に再び尚絅に戻った。

同年 8 月、ジェッシーは、ブゼルの後を継ぎ、第二代校長に就任することになった。

それ以前、1910(M43)年に女学校としての正式認可を受けた後、尚絅には更に家政科を中心に上級学校を作る構想があった。しかし 1918(T7)年、アメリカン・バプテストを含む七教派が中心となって東京女子大学が設立されることになった。このため、尚絅には、これと競合しないように、大学進学準備課程でもある三年制の高等科を設置することになった。1921(T10)年、高等科(英文科、家事科)の設置が認可され、六十一名が入学した。1922(T11)年には音楽科も設置された。

ジェッシーは、教育方針として「平和教育」を採り入れた。彼女は尚絅の教育の目指す「平和」について、「猜疑、略奪、残忍の中の平和」ではなく「キリストの平和」であり、各国がこぞって研究すべき「新しい科学」であると捉えている。当時としては先駆的な取組みであったと思われる。今日でも、平和教育は尚絅の一つの伝統となっている。

Jesse, Mary Daniel
(1883.11.16-1968.5.
12)

平和の意義について

第一次大戦の「平和条約」締結(1918年)を記念して

メリー D. ジェッシー

平和という言葉は人の注意をひく美しい言葉であります。その平和の訪れを聞いたとき、世界の人々は歌いつつ行列をして大喜びをしたのです。それは今より四年前、すなわち 1918 年の今月今日でありました。

…私共の平和は、キリストの平和、正義、道徳的の平和であります。猜疑、掠奪、残忍の中の平和ではありません。今日、本当の平和がないのは、我々がキリストの精神を受けていないからであります。

… どの国も、軍のために莫大な金を使って惜しみませんが、平和のためその百分の一の半分も金を費やしていないのは、本当の平和というものを考えていない証拠であります。平和はたしかに一つの科学であります。しかし、どこの学校でも、また教科書の中でも平和について教えておりません。今後各国は、挙って研究しなければならぬ「新しい科学」なのです。いかにしてこれを学ぶべきか、これは皆が考えて行かねばならぬ問題です。平和の根本問題は兄弟の愛をもって互いに愛する事で、交際も商事もそれに従属して行われねばならないものであります。

1922(T11)年 11 月 11 日

1923(T12)年 9 月 1 日、関東大震災発生。尚綱でも全生徒が捜真女学校(アメリカン・バプテスト、横浜市)など被災地の生徒のための寄付や、縫い物や編み物をして支援した。

この頃吉野作造も被災者支援に奔走していた。
本資料 p.38 参照

当時、女子の高等教育機会が乏しかったこともあり、尚綱は多くの志願者を惹きつけた。1922(T11)年に設置されたばかりの音楽科が 1924(T13)年の終わりに廃止されたが、狭い校舎に、より多くの学生を受け入れる必要に迫られたことも一因であったと思われる。この年 1919(T8)年に開設されたばかりの幼稚園も閉園されている。しかし音楽科廃止後も、一般生徒に対して行われていた尚綱の音楽教育は、収容限界を超えるほどの本科志願者を惹きつけるプログラムだった。

9.2 過労

1924(T13)年 9 月、ジェッシーは休暇で帰米する。ジェッシーは、幼稚園から高等科(ジュニア・カレッジ)までを含むキャンパス構想を描き、休暇を利用してそのための資金集めをしようと決意していた。だが、日露戦争の後、第一次世界大戦とその後の不況、そしていわゆるモンロー主義の下で、米国の対日感情は、すっかり冷めたものになっていた。そうした中で募金活動が難渋を極めたことは想像に難くない。しかも、ジェッシー本人が健康を害し、大きな手術を余儀なくされることになった。

これらの多くの障害にもかかわらず、彼女は遂に 1925(T14)年秋、インディアナ州バプテスト教会連合から五万ドルの寄付の約束を取り付けることに成功する。

こうして 1926(T15)年秋に帰国したジェッシーは、早々から校務に忙殺されることとなった。尚綱では、ジェッシーのたつての勧めで 1924(T13)年から校長代理を務めていた川口卯吉が、1926(T15)年 2 月から校長に就任していた。しかし WABFMS は宣教師が方針を決めて指導することを期待し、川口校長以下日本人スタッフも、あらゆる運営会議に彼女の出席を求めた。高等科新校舎建設のための米国での資金集めも予定通り進まず、

こちらの方の対策も求められていた。

1927(S2)年 11 月、ジェッシーはついに過労で倒れ二ヶ月間仙台を離れ静養せざるを得なくなった。

1928(S3)年 2 月に復帰するが、1931(S6)年には米国に残してきた母親の健康状態が悪化し、休暇を利用して帰国した。ところが、宣教師派遣母体である WABFMS の財政悪化などから、休暇が終わっても日本に戻れなかった。そこで、ジェッシーは、アメリカの南部バプテスト連盟の力を借りて、三年契約の英語教師として西南女学院(現在の西南女学院大学、北九州市、旧小倉市)に赴任するという形で、1934(S9)年に日本に戻った。

1935(S10)年には川口校長が辞任、安藤謙助が校長に就任し、「学校更生五カ年計画」を発表した。当時尚絅は財政難に陥っていたが、やはり財政的に厳しい状況にあった WABFMS からの自立を目指し、独立期成後援会を結成して募金活動を強化していく。

1936(S11)年 2 月、遠野から仙台に戻っていたブゼルが召天した。ジェッシーは 1937(S12)年 7 月、病気の母親を見舞うために再度帰米するが、母の勧めに従って、1938(S13)年 5 月、再び尚絅に戻る。その時には既に日米関係は極めて厳しいものになっていた。

合併の危機

1933(S8)年、WABFMS は、海外諸国の重い財政負担を逃れるため、尚絅と宮城女学校(現宮城学院、米国ドイツ改革派)の合併を提案した。しかし、関係者の合意は得られなかった。両校それぞれの伝統は、既に確固たるものとなっていたのである。

二つの高等科を廃止する案も出された。東京女子大と重複していると見られたのである。しかし、これも実現しなかった。高等科の存続を可能にしたのは、草の根レベルで始まった独立基金積み立て運動の成功であったということが出来る。

目標額 10 万円が集まったのは安藤校長の死後の 1940(S15)年だった。予想より二年早い目標達成であったが、その時には、日米開戦まであと一年に迫っていた。

9.3 キリスト教や西洋文化の敵視

戦争の危機が迫る中、在日宣教師はそれぞれ、母国に帰るか、日本に留まるかの選択を迫られていた。世の中の風潮としては、キリスト教会や西洋の影響を受けたあらゆるものが激しく敵視されるようになっていた。しかし、個々の宣教師の働きを知る多くの人々は、政治的なこととは切り離して、宣教師たちに対して、それぞれの立場で可能な限り誠実に接していた。

1931(S6)年満州事変
1933(S8)年国際連盟脱退
1937(S12)年盧溝橋事件、日中全面戦争開始
1938(S13)年国家総動員法公布

9.4 ジェッシーの米国帰国

ジェッシーは、日本に留まることを願っていた。しかし、1941(S16)年 4 月、休暇を期に帰国した後、両国は戦争に突入し、結果的に不在は六年間にわたった。

1941(S16)年 12 月 8 日
太平洋戦争開戦

尚絅学入門

ジェッシーはヴァージニア州で教師の職を探したが親日家と見られ、職を得ることが出来なかった。彼女は「わたしは仕事を得るために、友人たちを裏切ったり、不忠実であることは出来ません。日本人に関する仕事につくことをわたしは願っています」と語り、1943(S18)年、アリゾナ州日本人抑留キャンプの教師職に就いた。

10. 戦時中の尚綱

10.1 日本のキリスト教への傾倒

1930年代になると、ごく一部を除いて日本のキリスト教会は、次第に政府の戦争目的に追随し、やがて積極的に協力するようになっていく。また、天皇制に妥協し、皇道精神にキリスト教を矛盾なくすり合わせようとする日本のキリスト教へと傾いていった。

ステイブンス、ロバータ L. (河内愛子訳)『根づいた花 — メリー・D・ジェッシーと尚綱女学院』キリスト新聞社 2003年 p.148

三教会同・日本基督教団結成

1912(M45)年2月、三教会同が招集された。

三教会同とは、「日本の神道、仏教、キリスト教の各派が集って、国民道徳の向上のため協力を約した会合。内務次官床次竹二郎が提唱したもので、政府の企画、後援によって実現した。床次は、ヨーロッパにおいて宗教が大きな社会的感化力と指導力を発揮していることを知り、日本においても宗教の力を借りて危険思想を防ぎ、社会秩序の安定をはかるうとして、広く宗教界に呼びかけた。1912年2月25日華族会館で行われた会同には、神道13派代表13名、仏教14宗代表50名、キリスト教からは、メソジスト、組合教会、バプテスト、日本基督教会、聖公会、天主公教(カトリック)の各代表が出席した」。(ブリタニカ国際大百科事典より)

1941(昭16)年6月、国策として日本仏教教団と日本神道教団に並んで日本基督教団が結成され、プロテスタント諸教派が合同した。

「…その後欧米教会諸派が移植せられ、その宣教が国内全般に発展するにともなって、教派の数もとみに増加するようになった。これと共に他方各派の間にしばしば合同の議が生じ、海外における教会合同運動の刺激もあって、ついに全福音主義教会合同の機が熟するに至り、たまたま宗教団体法の実施せられるに際し、1940(昭和15)年10月17日東京に開かれた全国信徒大会は、教会合同を宣言するに至った。これに基づいて30余派の福音主義教会が、翌1941(昭和16)年6月24日および25日の両日富士見町教会に開かれた創立総会において、…本教団は成立したのである」。(日本基督教団HPより)

10.2 翼賛体制下のキリスト教主義学校

このような動きについて、尚綱の宣教師はどう考えていたのだろうか。ステイブンスは次のように述べている。

尚綱はこれまでも、どんな国策にも忠実な学校として知られてきた。宣教師たちもそれを認めてきた。彼女たちは日本の国民に好感を持ち、国家神道の祭祀王としてではなく、国家の首長としての天皇を尊敬していた。1912年、明治天皇大葬の時、皇居のある東京に向かって宮城遥拝することさえ、宣教師たちが問題と感ずることはなかった。国体、国策への忠誠はキリスト教の団体にはなじまない、といった気持ちを宣教師たちは見せなかったし、自分たちの行動と神道を結びつけもしなかった。

ステイブンス、『前掲書』 p.149

宮城遥拝

1940(S15)年は皇紀2600年奉祝の年であり、「大政翼賛会」が結成された。国民や民間団体の活動に対し、軍部の締め付けが強化されていった。

大政翼賛会

仙台のキリスト教主義学校の校長も、県当局に集められ、天

尚綱学入門

皇と皇后の写真を目立つ場所に置くように指示された。尚綱では扉で開閉する奉安庫を作り、校長室に置いた。

さらに、8月には県庁から学校に三つの要望が伝えられた。

- 1 礼拝その他の集会の前に全員が国旗に敬礼、国歌斉唱、宮城遥拝を行なうこと。
- 2 未だ天皇の写真を奉載していない学校はそれをなすべきこと。しない場合は法的に罰せられる。
- 3 聖書を教えることは差し支えないが、正規の学科として教えるはならない。

1941(S16)年4月の入学式では、新入生は、彼女たちにとって学校行事としては最初で最後となる校歌を歌った。宗教色を出さないよう、その後の行事では校歌を歌うことは自粛することとされたのである。

同年12月8日の真珠湾攻撃を皮切りに、日米は戦争状態に入る。この日まで尚綱に唯一とどまっていた宣教師アリス・ビクスビーは、翌日拘束され、元寺小路のカトリック教会内に作られた収容所に入れられ、1942(S17)年6月、交換船で米国に帰国した。

1943(S18)年4月、「仙台尚綱高等女学校」と改称、これを機にそれまで使っていた漢字を正式に改め、「尚綱」を「尚綱」とした。朝の礼拝も聖書の授業も打ち切られたため、その後の入学者の多くは敗戦まで、ほとんど「仙台尚綱高等女学校」がキリスト教主義の学校であることを知らずに過ごしたという。

教科の学習はしだいに農作業や保育所の手伝いなどの勤労奉仕に置き換えられ、やがて勤労働員により、生徒たちは、県内各地や遠くは横浜茅ヶ崎の工場で働くことになった。1945(S20)年4月からは、すべての授業が停止された。

1945(S20)年7月10日、米軍B-29による仙台空襲が行われ、被害は被災戸数11,933戸、死者2,755人に達した。尚綱は市の西はずれに位置していたため、寄宿舍が全焼した他、被害は少なかったが、焼け出された生徒たちは市の内外に離散した。

1945年4月2日の高等女学部卒業式は東京計器茅ヶ崎工場で行われた。

『仙台市戦災復興誌』
仙台開発局 1981年

10.3 尚綱らしさの保持

学業、課外活動すべてが崩壊していった時代に、かろうじて持ちこたえることができた「尚綱らしさ」は、音楽と日曜学校であった。

1944(S19)年まで校内リサイタルが春、秋年二回行われていた。またテノールの藤原義江、ヴァイオリンの辻久子など当代一流の演奏家を招いて演奏会が行われた。

エラ・オー・パトリック・ホームの一室で十人足らずの生徒を集め、敗戦のその時までたった一人で日曜学校を守ったのが、音楽教師佐藤みさをだつた。それはブゼルの、ジェッシーの精神を守ることを意味した。微かな声ではあつたが、最後まで祈りと聖書と讃美歌が存在したのはこの場所であった。

戦時中の尚綱

佐藤みさを

1888(M21)年8月10日仙台市生まれ。伊達藩代々の漢学者の家に生まれるが、事情あって母と祖母に育てられ、生活は困窮。1897(M30)年4月、八歳で尚綱の寄宿生、1903(M36)年尚綱女学校入学、仙台浸礼教会にて受洗。1908(M41)年卒業後、ブゼルの指示により四年間音楽を学ぶ。1912(M45)年から1955(S30)年まで43年間、尚綱の音楽教師を務めた。その後も十数年間、尚綱女学校の課外ピアノ教師を務めた。みさをは、和服の似合う、おしゃれて美しい先生で、生徒たちの憧れの的であったという。

1927(S2)年から1932(S7)年まで尚綱同窓会長。1961(S36)年から三年間、尚綱女学院評議員。女学生時代から1960年代前半まで、日曜学校教師、校長を務めた。

第二次世界大戦中、特に後半には礼拝も聖書の授業もなくなり、讃美歌や宗教音楽は禁止された。そのような状況の中で、「授業、文芸会、校外の演奏会のプログラムには、かろうじて音楽性の感じられる時局に添う歌を選び、その間に西洋古典の名曲をもぐりこませた」という。また、学期末のリサイタルを1944(S19)年まで継続し、課外でレッスンを受けた生徒が様々な名曲を全校生徒の前で披露した。

佐藤みさをはエラ・オー・パトリック・ホームで1919(T8)年に開校した尚綱日曜学校を、隠れキリシタンのように守り続けた。生徒は減る一方で、1945(S20)年6月には最後の一人となった生徒も勤労働員で出席できなくなったが、8月に戦争が終わると350人もの生徒が押し寄せるようになった。1983(S58)年12月1日、早坂愛生会病院にて永眠。享年九十五歳。晩年まで、みさをを慕うかつての教え子をはじめ多くの人々の訪問が絶えなかったという。



佐藤みさを

小野寺正美（短大英文科2期生、内ヶ崎作三郎の孫）によれば、尚綱の学生寮では、禁止されたはずの讃美と祈りの時が、夕拝という形で秘かに守られていたという。（小野寺正美、「尚綱女学院に学んだ同窓生の回顧と願い」尚綱学院同窓会編『むつみのくさり』復刊第11号2015年所収、p.68）

11. 戦後の尚綱 — 根づいた花

11.1 転がる石に苔は生えない

1947(S22)年、戦後仙台に戻った最初の宣教師はジェッシーであった。既に六十五歳で体調も十分ではなかったが、彼女はさっそく活動を再開した。学校の再建に加え、戦争被災者や満州から引き揚げてきた卒業生の援助にも努力を惜しまなかった。

尚綱は1948(S23)年、校名を「尚綱女学院」と改称し、1949(S24)年から1952(S27)年までジェッシーが学院長を務めた。そして、新しい学校制度のもとで、短期大学としての歩みを始めることとなった。

「転石苔生さず」(てんせきこけむさず "A rolling stone gathers no moss.")という昔から伝えられている諺がある。英国では「頻繁に転職したり行動を軽々しく変えたりする人は、結局成功しない」という譬えとされているが、米国では逆に、「じっとしていると古びて使い物にならなくなってしまう、常に積極的に行動し、時代の変化に即して進歩すべきだ」という意味で用いられることが多い。数年に及ぶ戦時体制の下で、尚綱は試練の時代を沈黙のうちにじっと耐え続けてきたが、ついにこびり付いた苔を振り払って動き始める時を迎えたのである。

ジェッシーの尚綱の教育に対する信念

[決して教育の学問的水準の高さを軽んじているという意味ではありませんが] 私たちは知的訓練以上のものが必要であること、本の知識以外のものが劣らず重要であると強く感じております。磨かれた知力が必ずしも高潔な人格を作るとは限りません。知識を行動に移さなければならぬ。…人生を意味あらしめ価値あらしめるには、極めて強力で誠実な関心—中核—を持たなければなりません。その大きな中核とは「神」です。

1950(S25)年 11月

尚綱女学院短期大学開学記念式典式辞

11.2 根づいた花

『根づいた花—メリー・D・ジェッシーと尚綱女学院』の著者であり、自身も最近まで尚綱の宣教師であったR.スティブンスによれば、ジェッシーは、すべての人々に判断の基準をしっかりと育てるよう促した。彼女は、フィリピの信徒への手紙 4:13の「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」の聖句を好んだという。彼女は、例えば校舎建設のための募金活動が行き詰まった時のように、人間の力では乗り越えることが不可能と思われる局面を、自分の意志や力によらず、神の意志と導きによって乗り越えるという、一つの「行動のモデル」を示した。

ジェッシーの結論は、「尚綱は、時代の流れによって枯れてしまうような根のない花ではなく、キリスト教というしっかりとした根を持ってきて、生徒の心に深く植えることで、使命を果たさなければならない」というものであった。彼女は四十年

戦後の尚綱 — 根づいた花

の働きの間、信仰に根づいた花を尚綱に咲かせようと努めた。スティブンスは、「今すべての人が問い直すべきは、花の根が生き続けているか、ということである」と問いかけている。

11.3 短期大学の整備

1950(S25)年 4 月、齊藤久吉理事長、ジェッシー院長・学長の下、英語科と家政科二学科編成の「尚綱女学院短期大学」がスタートした。1952(S27)年、家政科が栄養士養成施設に指定された。

1952(S27)年 4 月、ジェッシーが院長・学長を辞任し、創立六十周年行事の中で送別会が行われ、7月に帰米した。

当時、仙台市内の栄養士養成施設指定校は、本学と東北大学農学部生活科学科の二校のみだった。

齊藤久吉の経歴



尚綱女学校理事に就任 1937 (昭 12) 年
以来 理事長、学院長、短大学長、中・
高校長、幼稚園長を歴任

齊藤久吉は、1930(S5)年 4 月、大阪から塩釜教会牧師に就任、1937(S12)年、尚綱女学院理事、1951(S26)年、財団法人から学校法人となった尚綱女学院の初代理事長、1963(S38)年から 1975(S50)年まで十二年にわたり理事長・院長を(1963 年から 70 年までは学長も)兼務して尚綱を支えた。

この間、齊藤久吉は、当時の農村の窮乏を見て農村伝道に取り組み 1932(S7)年には利府伝道所を献堂、同会堂を用いて農繁託児所、農民福音学校、聖農学園を設立して伝道者の養成に努めた。1972(S47)年、仙台基督教教育院理事長に就任、1986(S61)年、ありのまま舎社会福祉法人化に伴い、初代理事長就任、2006(H18)年 12 月没。

1955(S30)年には保育科が開設され、翌 1956(S31)年、附属幼稚園が設置された。東北・北海道で幼稚園の二級普通免許状を受けられる機関は、当時他になかった。他方、英語科は入学者減少により 1958(S33)年度以降募集を停止した。

11.4 展開期

1960(S35)年、捜真女学校(アメリカン・バプテスト、横浜市)校長に就任した千葉勇の後任として西南女学院(米国南部バプテスト、北九州市)の院長だった吉井正敏を院長・学長に迎えた。

尚綱学入門

吉井は同年 11 月、四年制大学設置、中高一貫教育、学生数三千名、校舎の移転整備などを内容とする必要経費五億円の「拡張十五ヶ年計画」を発表する。また「尚綱女学院後援会」が設立された。

1963(S38)年、吉井正敏院長、後に学長となる島田正雄副学長(当時)、伊藤昌子教授の努力により「尚綱音楽教室」が、桐朋学園大学音楽部附属音楽教室との提携の下で設立された。

1967(S42)年、英文科が再び設置され、荒巻(中山)に新校舎が落成、翌 1968 (S43)年には保育科も移転した。家政科は引き続き八幡校舎で教育研究を続けた。

1968(S43)年 5 月 12 日、名誉院長ジェッシーが米国で逝去した。折からジェッシーの再三の招きを受けて米国を訪れていた三島かほるが遺骨を持ち帰り、遺言により北山墓地のブゼルの隣に埋骨された。

吉井は熊本県出身。東北帝国大学地質学科学士の頃ブゼルのバイブル・クラスに学んだ。1963 (S38)年 3 月急逝

三島かほる

1903(M36)年 1 月 15 日仙台市生まれ。1915(T4)年尚綱女学校入学、1920(T9)年卒業後、神戸女学院大学部英文科に進学。1924(T13)年卒業後尚綱女学校に英語教師として奉職。1928(S3)年結婚のため退職するが、1934(S9)年理事に選任され、その後理事として三十年、更に監事として四年間学校の運営に携わる。

1947(S22)年尚綱同窓会長に選任され、前後十八年間会長を務めた。戦後の厳しい時代に、同窓生有志と共に、生活必需品などをリヤカーに積んで、仙台市内の生活困窮者の集まる地区に運び、無料で配ったり廉価で販売したりした。また 1960(S35)年、後援会設立にあたって副会長に就任、その後、二十六年間後援会活動に従事した。

1948(S23)年の仙台 YWCA 創立時には、創設委員を務め、後には会長も務めた。1987(S62)年 6 月 9 日、夫君三島保の後を追うようにして永眠。享年八十四歳。

11.5 名取キャンパスへの統合移転

この頃、短期大学家政科、保育科、英文科は多くの志願者を集めていた。1977(S52)年 4 月、木村和彦が学長に就任し、1978(S53)年四年制大学設置を含む「尚綱女学院短期大学今後のビジョン」七項目を発表した。1979(S54)年、「将来計画検討委員会」が設置された。1983(S58)年には名取市への統合移転、四年制大学の設置等からなる「尚綱女学院の建設構想」が発表された。

1989(平成元)年、名取キャンパス第一期工事が完成し、二十年来の懸案であった統合移転が実現した。短期大学には家政科、保育科、英文科に加え、人間関係科が新設され、四学科体制となった。

1979(S54)年、短期大学尚学会が父母教師会から分離して誕生した。

11.6 尚絅学院大学の誕生と発展

四年制大学設置はジェッシーのジュニア・カレッジ構想、吉井の学院拡張十五ヶ年計画以来尚絅女学院の長年の懸案だった。

1992(H4)年をピークに十八歳人口が減少する中で、1999(H11)年、深田寛理事長と大崎節郎学院長が就任し、四年制大学設立に向けた動きが本格化する。「尚絅女学院募金事業」が開始され、2002(H14)年4月大学設置準備室が発足、設置認可手続を経て、2003(H15)年4月、男女共学の尚絅学院大学が開学し、初代学長に渡部治雄が就任した。

法人名も「尚絅女学院」から「尚絅学院」へと変更された。四年制大学開学時は人間心理学科、健康栄養学科の二学科体制だった。

総合人間科学部設置の趣旨

尚絅学院大学設置申請書(2002年)より

「本〔総合人間科〕学部は人間を「こころ」と「からだ」の統合と考える立場から、生命活動を支える食と健康の視点からみた人間の「からだ」の問題と、社会環境の変化に揺れ動く精神活動の主体としての人間の「こころ」の問題について、一つの学部の下で、総合的に教育研究を行うことを目的としている…

人間科学という言葉は、元来、人間に関してその思想や個人的及び集団的な行動や人間のつくり出す諸事象、諸組織について研究する科学の総称として用いられ、旧来の人文科学や社会科学よりも広い総合的概念としてフランスで最初に使われた。日本で学部名称として使用したのは大阪大学が最初で、学問分野としては心理学、教育学、社会学、行動科学等の分野を包摂する総合的な科学の意味で使われ、わが国ではそのような学問を表現する名称として定着している。

本学では、人間をあくまで「こころ」と「からだ」の統合として理解し、現代社会における人間性の回復を「健康なこころとからだ」の回復という視点から究明することを大きな課題としている。したがって、人間の「からだ」「からだの健康」「健康と栄養」などを教育研究の対象とする医学や食物栄養学などの、人間に関わる自然諸科学をも包含し、総合性を一層高めた内容の人間科学の構築を目指す意味で、「総合人間科学」という名称を使っている。」

2002(H14)年「文化・産業事業支援に関する協定」名取市と締結。2003(H15)年、オープン・カレッジや市民大学講座等の事業開始。

2007(H19)年心理学専攻、健康栄養科学専攻からなる大学院総合人間科学研究科が設置されるとともに、総合人間科学部に表現文化学科、現代社会学科、生活環境学科の三学科が設置され、五学科体制となった。

女子短期大学部生活創造学科、英文科は2006(H18)年度に募集停止され、2009(H21)年3月に廃止された。

尚絅女学院の英文科

英文科は1920(T9)年高等科開設当初から設置され、「英語の尚絅」と言われた時代もあった。1940(S15)年に一旦廃止、1946(S21)年に再設置、1950(S25)年、短期大学創設と同時に英語科としてスタートしたが、1958(S33)年に学生募集を停止した。1967(S42)年に改めて英文科を設置したが、四年制大学移行時には、英文科は女子短期

大学部英文科として残され、2009(H21)年、女子短期大学部英文科も廃止となった。その伝統は、表現文化学科に引き継がれている。

2009(H21)年、名取キャンパスに”3C”(Collaboration, Concentration & Communication) をコンセプトとする図書館が完成した。

同年白石市で第一回尚綱メディア・フェスタが開催された。また、「生涯学習センター」が名取市増田に開設された。東日本大震災の際には、生涯学習センターが、名取地区における被災者支援の一拠点となり、学生・教職員と共に生涯学習講座受講生が支援活動の担い手として活躍する。

2010(H22)年 4 月、子ども学科が設置された。2011(H23)年 5 月、エラ・オー・パトリック・ホーム移築復元工事が完了、竣工式が行われた。

同年 12 月、宗教的伝統を共有する米国ジャドソン大学(アメリカン・バプテスト、シカゴ)との間で交流協定を締結した。

学内公募で選定された愛称 ”almo” はイタリア語で「恵み」の意味

尚綱女学院の保育科

尚綱女学校に保母科が設置されたのは、高等科が専攻部と改称された 1936(S11)年である。1941(S16)年、保育科に改称した。

戦後、短期大学創設時には保育科は設置されず、1955(S30)年、幼稚園教諭養成課程として保育科が開設された。翌 1956(S31)年、実習園として尚綱女学院幼稚園が設置された。保母養成施設(現在の保育士養成施設)に指定されたのは 1963(S38)年である。2003(H15)年の大学開学に際しても、四年制の課程としては幼稚園教諭・保育士養成課程は設置されず、尚綱学院大学女子短期大学部保育科として 2009(H21)年まで募集を継続した。

四年制大学開学から七年経った 2010(H22)年 4 月、幼稚園教諭・保育士養成課程を含む四年制の子ども学科が設置された。これに伴い、2011(H23)年 3 月、短期大学部保育科は廃止された。

11.7 震災後の尚綱学院大学

2011(H23)年 3 月 11 日、東日本大震災が発生した。本学院の建物被害は比較的軽微であったが、二名の学生を失い、多くの学生・教職員・同窓生やその家族が被災した。同窓会、後援会、尚学会など本学院関係者すべてに呼びかけて、救援献金「オール尚綱で助け合おう」を開始、一千万円以上の義援金が集まった。学生を中心とする被災地支援活動は、ヴォランティア・グループ TASKI を中心に、他大学等とも連携しながら、現在も精力的に継続されている。

2012(H24)年 5 月、大連理工大学と交流協定を締結した。また、大学教育の改善と地域貢献を目的とした研究活動のために総合人間科学研究所を設置した。

同年 11 月、大学礼拝堂が竣工した。これは 1989(平成元)年の名取キャンパス移転以来、資金面から延期されていたものである。

2012.11 礼拝堂竣工
礼拝堂のコンセプトは「調和」「神聖」「静謐」

戦後の尚綱 — 根づいた花

2015(H27)年4月、生活環境学科を基にして「環境構想学科」がスタートした。これを機に全学科でカリキュラム改革を実施した。

2016(H28)年からは、学科横断コースとして国際教養コースが設置され、海外の交流協定校も、米国、中国に加え、台湾、韓国、ロシアの計六大学に拡大した。

2017(H29)年には、宮城県川崎町との間で包括的な連携協定が締結された。また、学科横断型コースとして「地域実践コース」が開設された。

同年、尚綱学院大学総合人間科学会が発足した。また、総合人間科学研究所に環境デザイン教育研究センター及びアクティヴ・ラーニング研究・実践センターが設置され、活動を開始した。

また移転以来、当時の基本的コンセプトで維持されてきた校舎についても、アクティヴ・ラーニング(主体的対話的な学び)を支える新しいラーニング・コモنزの考え方を取り入れた整備(ラーニング・ステーション、ラーニング・スポット、コモنز・カフェなど)に着手している。これは、学習支援センター(2016年設置)、契約寮(2016年度～)とこれを結ぶ通学バス、給付制奨学金やワーク・スタディ制度(2016年度開始)、図書館の利便性の向上などとともに、学生の学修を中心とする生活全体をトータルに支援する環境整備、「尚綱コモنز」の一環として位置づけられている。

尚綱学院大学は、「キリスト教の精神を土台とし、自らを磨き、他者と共に生きる」という建学の精神を継承しつつ、教職員と学生との身近な距離感を大切にしながら、常に新たな伝統の創造に向けて進化を続けている。



現在の尚綱学院大学

12. 尚絅の校歌・学院歌

12.1 尚絅女学校校歌

1917(T6)年11月、尚絅女学校創立二十五周年記念祝賀行事が、五日間にわたり盛大に行われた(本資料 p.22-23参照)。初日の11月21日に行われたのは、新礼拝堂兼講堂での夜の音楽会であった。最後を締めくくったのが、生徒一同によって初めて披露された「尚絅女学校校歌」(現在の尚絅学院校歌にあたる)である。この校歌は土井晩翠作詞、佐々木英作曲。あれから百年経った今でも、多くの同窓生に愛唱され歌い継がれてきた名曲である。

「橄欖山の夕暮れの…」と始まる歌詞は、1919(T8)年5月に公にされた土井晩翠の第四詩集『曙光』に収められている。当時、第二高等学校(旧制二高)の英語教授であった晩翠は、彼の教え子たちがブゼルのバイブル・クラスで大きな感化を受けていたことを知っており、ブゼルと尚絅女学校に敬意と期待を寄せていたようである。

一方、作曲を手がけた佐々木英は、兵庫県出身で東京音楽学校(現在の東京芸術大学)甲種師範科の出身であった。佐々木はそこで尚絅女学校の卒業生池田むねと出会う。彼女も同じ甲種師範科で、卒業後仙台に戻り尚絅女学校の音楽教師となる。時あたかも尚絅女学校創立二十五周年記念行事を翌年に控えた時期であった。土井晩翠作詞の校歌の作曲は、池田むねを通して当時作曲活動に力量を発揮していた佐々木英に託されたのであった。

作詞 土井 晩翠 (1871 - 1952)

明治期の詩人、英文学者。仙台の北鍛冶町(現在の青葉区木町通二丁目)に生まれる。本名は土井林吉(つちい・りんきち)。1934(S9)年に「どい」と改称。第二高等中学(後の第二高等学校、東北大学の前身校の一つ)に入学し、吉野作造と交友を結ぶ。その後、1897(M30)年、東京帝国大学英文学科を卒業。在学中から雑誌「帝国文学」の編集委員となり、1899(M32)年、第一詩集『天地有情』を刊行。これが好評を博し、藤村・晩翠時代を形成。「荒城の月」(滝廉太郎作曲)の作詞者として最も広く知られている。1949(S24)年、仙台市初の名誉市民、1950(S25)年には詩人として初めて文化勲章を受けた。

作曲 佐々木 英 (1892 - 1966)

兵庫県印南郡阿弥陀村魚橋(現在の兵庫県高砂市)出身。1916(大5)年東京音楽学校(現在の東京芸術大学)甲種師範科卒業。浜松師範在職中に「青い鳥」を作曲。1922(T11)年上京、1924(T13)年「青い鳥楽譜」を発刊して自作を発表。のち、ビクター、キング、コロムビアなどの専属作曲家として童謡を中心に数千にのぼる作品を残した。主な作品に「月の沙漠」「お山の杉の子」「赤ちゃんのお耳」など。

尚綱女學校校歌

土井晚翠先生 作歌
佐々木英先生 作曲

(一)かん さん かんの一 一く ん ん
 たい とほし にせん せん や
 まはくく ち らめ ち かな きあ
 いと一に ん とし ん一の ん ち き

よきをしへの み ひかり
 こたやと ちか かに ちか
 やまと なてしこひめゆりの
 なつ はみたり びしめよ

歌詞の執筆者は教師 高野みちるである

橄欖山の夕暮の 歌今遠し二千年
 秋今遠し二千年
 山は裂くるも揺ぎなき 愛と望と信の道
 愛と望と信の道
 聖き教の御光を ここにやしまの東北
 ここにやしまの東北
 大和撫子姫百合の 花に 蕾に 浴びしめよ
 花に 蕾に 浴びしめよ
 金華松島塩釜の ゆかりの郷の春と秋
 ゆかりの郷の春と秋
 色も匂も大能の 御手の描ける跡とみて
 御手の描ける跡とみて
 酌めど盡きせぬ意を探る 身は清曉の露含み
 身は清曉の露含み
 風は香を吐く白薔薇 塵に染まぬを理想として
 塵に染まぬを理想として
 青葉広瀬をまのあたり 錦穿ちて綱尚う
 錦穿ちて綱尚う
 深き警心して 教の庭にいそしめる
 教の庭にいそしめる
 嗚呼わが姉妹知を集め 操を磨け天地の
 操を磨け天地の
 神の御栄現わして 道と邦とにつくす迄
 道と邦とにつくす迄

1. 橄欖山の夕暮の 歌今遠し二千年
 山は裂くるも揺ぎなき 愛と望と信の道
 聖き教の御光を ここにやしまの東北
 大和撫子姫百合の 花に 蕾に 浴びしめよ
2. 金華松島塩釜の ゆかりの郷の春と秋
 色も匂も大能の 御手の描ける跡とみて
 酌めど盡きせぬ意を探る 身は清曉の露含み
 風は香を吐く白薔薇 塵に染まぬを理想として
3. 青葉広瀬をまのあたり 錦穿ちて綱尚う
 深き警心して 教の庭にいそしめる
 嗚呼わが姉妹知を集め 操を磨け天地の
 神の御栄現わして 道と邦とにつくす迄

12.2 尚絅学院歌

尚絅学院大学は2003(H15)年4月に男女共学の大学として開学した。それ以前から、新しい校歌を要望する意見が多く寄せられており、2002(H14)年10月に「新校歌制定準備委員会」が設置された。そこで、作詞を岩手県水沢市出身、仙台在住、「河北歌壇」の選者も務めていた歌人佐藤通雅に、作曲を尚絅学院大学女子短期大学部教授今井邦男に依頼した。

一年有余に及ぶ二人の尽力により、新時代を迎える本学院にふさわしい「学院歌」が完成し、2004(H16)年制定された。

その後、今井邦男による補作・作曲を経て、2010(H22)年1月29日、現在の尚絅学院歌が制定された。

作詞者の佐藤通雅によれば、歌詞の一番は中・高等学校周辺の青葉山と広瀬川、二番は大学の敷地内の広場、三番は海の方へと開ける風景をもとにしたという。

佐藤通雅「学院歌作詞について」、尚絅学院同窓会編『むつみのくさり』復刊第11号2015年所収。

作詞(原作)：佐藤通雅(1943 -)

岩手県水沢市出身の歌人。東北大学教育学部卒業、元高校教師。歌集『往還』、評論集『新美南古童謡論』、『宮沢賢治の文学世界』など著書多数。日本児童文学者協会新人賞、宮城県芸術選奨、宮沢賢治賞などの数々の賞を受賞している。文学思想個人誌「路上」の発行者としても知られ、「河北歌壇」の選者を務める。

作曲・作詞(補作)：今井邦男(1942 -)

大連生れ。東北大学教育学部卒業、ケンブリッジ州立工芸大学音楽学部留学。作曲を福井文彦、高田三郎に師事。尚絅学院大学女子短期大学部教授。作曲家、合唱指導者。宮城県芸術選奨受賞。全日本合唱コンクール金賞多数受賞。作品は管弦楽、室内楽、合唱作品等多数。2002(H14)年、ダルムシュタットで発表された「おくのほそ道」はその後ヨーロッパ各地で演奏されている。尚絅学院大学附属幼稚園歌なども作曲。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 朝霧の葉群のしづく | 尚絅 尚絅 |
| 森の呼気 あい寄り成れる | 尚絅 尚絅 此処に |
| 清き水 ゆたけき光 | つどいて 共に 求めゆかんぞ |
| 声若やかに 瀬を走る | つどいて 共に 信の道を |
| 2. 丘の上は 振りくる日ざし | 尚絅 尚絅 |
| 花の影 園の青草 | 尚絅 尚絅 此処に |
| 踏みゆけば 風ひらめき | つどいて 共に 進みゆかんぞ |
| しろがねの時間 新らしく | つどいて 共に 望の道を |
| 3. みはるかす 無窮の東 | 尚絅 尚絅 |
| 行く翼 季節に順う | 尚絅 尚絅 此処に |
| 海の色 いざ目を上げ | つどいて 共に 広めゆかんぞ |
| 言の葉胸に 歩みゆく | つどいて 共に 愛の道を |

尚綱の校歌・学院歌

尚綱学院歌

作詞 原作 佐藤 通雅
 補作 今井 邦男
 作曲 今井 邦男

alla marcia

あ さ

ぎりの は む ら の し ず く も り の こ き あ い よ り な れ る き よ
 の え は ふ り く る ひ ざ し は な の か げ そ の の あ お く さ ふ み
 る か す む き ゆ う の ひ が し ゆ く つ ば さ と き に し た が う う み

き み ず ゆ た け き か げ こ え わ か や か に せ を は し る
 ゆ け ば か ぜ ひ ら め き し ろ が ね の と き あ た ら し く し ょ う
 の い ろ い ざ め を あ げ こ と の は む ね に あ ゆ み ゆ く

けい し ょ う けい し ょ う けい し ょ う けい こ こ に つ ど

い て と も に も と め ゆ か ん ぞ つ ど
 す す み ゆ か ん ぞ つ ど
 ひ ろ め ゆ か ん ぞ つ ど

1, 2. 3.

い て と も に し ん の み ち を 2. お か
 い て と も に の ぞ み の み ち を 3. み は
 い て と も に あ い の み ち を

13. 尚綱の森の自然

[資料] ゆりが丘 (旧イトーピア名取) 住宅開発計画 (株オオバ 1983 制作・尚綱学院所蔵) より抜粋編集

環境保全目標

開発地域は、名取平野を囲む丘陵地であり、落葉広葉樹に覆われたいわゆる農村地帯の里山である。このような地域であることを踏まえ、本地域における植物にかかわる環境保全目標は以下の設定項目とする。

環境保全目標

- ① 重要な植物群落の保全
- ② 重要な植物種の保全
- ③ 重要な動物の棲息場所等の保全
- ④ 生活環境としての緑の保全
- ⑤ 景観としての緑の保全
- ⑥ 信仰対象の構成要素としての緑の保全

上記、①～⑥の各号に掲げた項目について、以下に詳述する。

(1) 重要な植物群落の保全

本地域及び周辺地域の重要な植物群落は、1 現況において法律によるもの、学術的なものなどの項目にわけ、下表のものをとりあげた。

表 4-9-11 開発地域及び周辺地域の重要な植物群落

名 称	場 所	内 容
高館・千貫山県自然環境保全地域	周 辺	県指定自然環境保全地域
霊屋のスギ	周 辺	特定植物群落
東北大学のモミ林		
佐保山のモミ・イヌブナ林		
仙台鳥獣保護区		
コナラ群落等の落葉広葉樹林	地 域 内	各種機能が高いと考えられる群落
ケヤキ群落		
オニグルミ群落		

このうち、本地域周辺の霊屋のスギ、東北大学のモミ林、佐保山のモミ・イヌブナ林、仙台鳥獣保護区(青葉山付近特別保護地区を含む)については、開発による影響はほとんど考えられないので、保全目標の設定内容からはずした。

①高館・千貫山県自然環境保全地域

高館・千貫山県自然環境保全地域は本地域の南側に隣接して指定されており、生存する動植物を含む自然環境が勝れた状態を維持している地域として保全されることになっている。これに対応して開発に当って、高館・千貫山県自然環境保全地域への影響がないように配慮するとともに、これとの調和を図るため従来の自然を活かした緑地をつくる。

②コナラ群落等の落葉広葉樹林

本地域のコナラ群落等の落葉広葉樹林は、表 4-9-8 に示す各種機能を果していると考えられる。開発に当っては、これらの機能と環境の状態を十分に検討し、機能低下等の影響を最小限にとどめる。

③ケヤキ群落・オニグルミ群落

本地域のケヤキ群落・オニグルミ群落は、法的な指定にも、一般に広く認められている学術的に貴重な植物群落にもあてはまらないが、地域的に見て特に自然性が高い植物群落である。また、これらの群落は宮城県内でも減少しつつある群落であり、できるかぎり保全する。

(2) 重要な植物種の保全

本地域では下表に挙げる重要種が確認されている。

表 4-9-12 開発地域内の重要な植物種

種 名	種 の 形 状 等
ナンブワチガイソウ	多年草 高さ15~20cm
オヤリハグマ	多年草 高さ45~85cm
トウゴクミツバツツジ	落葉低木 高さ 2~ 4m
ヤマコウバシ	大型落葉低木

宮城県内の丘陵地が近年急速に開発され、特に自然度6以上の森林群落が地形の改変とともに減ってきており、これらの森林に分布する貴重種の減少も目立っている。したがって、本地域の重要種の殆どが自然性の高い植物群落の中に生育している低木或いは草本植物であることに留意して、できるかぎりこれらの植物種の保全を図る。

(3) 重要な動物の棲息場所等の保全

本地域では、下表に挙げる動物種が重要種として確認されている。

表 4-9-13 開発地域内の重要な動物種

類 名	種 名
哺乳動物類	ニホンアナグマ、ホンドテン、ホンドタヌキ、トウホクノウサギ
鳥 類	アオバト、ツツドリ、フクロウ、ヨルリ、キビタキ、オオルリ、アオゲラ、クロツグミ、ヤマガラ、ヤマドリ
爬虫類・両生類	クロサンショウウオ、カジカガエル
淡水魚類	ギンブナ
昆 虫 類	オオムラサキ、マガタマハンミョウ、キバネセセリ、スミナガシ、テングチョウ、オオヒカゲ、ウラギンシジミ、フタイロコヤガ

自然状態では動物種は生態系の一員として生存しており、ここでは動物種にとって第1次生産者である植物はもとより、棲息場所である植物群落の存在は不可欠なものである。したがって、個々の動物種の棲息環境及び食物連鎖等に充分留意して、動物種にかかわる植物種、植物群落の保全を図る。

(4) 生活環境としての緑の保全

本地域は将来、住宅地・学校用地として利用されるため、できるかぎり快適性、安全性、便宜性等を因ることが望ましい。植物・動物といった自然環境はとりいれ方により快適性を増すものである。特に青少年にとっての自然の鑑賞或いは物動植物との出会いは、情緒的発達に大きな影響を与えられている。大人にとっても、精神衛生・保健休養といった面での効用は大きい。こういった快適性を高めることは、住宅地・学校用地としての付加価値を高めることであり、住宅地・学校用地の条件の一つであると言える。したがって本地域にも、より勝れた自然をとりいれて日常生活の中で気軽に触れることのできる生活環境としての緑地を保全する。

(5) 景観としての緑の保全

本地域及び周辺地域は、名取川を挟んで仙台市に近接する丘陵地の一面であり、北側から東側にかけての平坦地には畑、水田が広がり、所々に集落が点在する古くからの農村地帯である。開発に当っては、周辺地域との調和を図るため農村的風景の主体ともなっているコナラ群落等に覆われた里山を地形も含めて保全する。

また、本地域が平野に接する丘陵地であるという特性を活かして、地域内における眺望点の確保と眺望点の利用のため周辺環境としての緑地を保全する。

(6) 歴史的象徴の構成要素としての緑の保全

本地域及び周辺地域は、那智神社を始めとして古くから信仰の対象の山となっているところが多く、本地域北端部の平野に面する斜面の落葉広葉樹林の中には、しめなわがまわしてあるアカマツの巨木(樹高9.0m 胸高幹周*252cm)があり、その脇に小さなほこらが奉つてある。このような信仰では、植物が重要な構成

要素となっており、住民等の意見に留意して地形を含む植物群落及びアカマツの巨木の保全を図る。

*胸高幹周：根ざわから垂直方向に130cmの高さの樹の幹の周囲の長さ

環境保全対策

本項では、環境保全目標を踏まえ環境保全対策の検討を行った。

(1) 重要な植物群落の保全対策

環境保全目録では、隣接する①高館・千貫山県自然環境保全地域への配慮、②コナラ群落等の落葉広葉樹林のもつ各種機能への影響の最小化、③ケヤキ群落・オニグルミ群落といった地域的に見て自然性が高い植物群落の保全をとりあげた。

これらをできるだけ達成するための保全対策の方法を以下に述べる。

① 高館・千貫山県自然環境保全地域への配慮

a. 自然法面（のりめん）*の導入

高館・千貫山県自然環境保全地域は、宮城県の丘陵地の代表的な自然として比較的良好な状態を維持していることが指定の対象となっているが、将来、周辺の開発により自然が孤立した形で残ってしまう可能性が充分にある。このため周辺部の開発では、できるだけ地形的改変を抑え、自然法面を取入れて調和を図ることが望ましい。

自然法面の導入では、特に達成時の盛土・切土に充分注意する必要があり、斜面上部での土の移動では、自然法面に土が被らないようにすることが大切である。植物は地下に根をはっており、林下に大量に流れこんだ場合、水分条件、通気等が悪化し枯死することが多い。植物の枯死は法面の不安定化にも繋がるので極力避ける。

*法面（のりめん）：「斜面」の意、土木建設用語

b. 在来種の利用

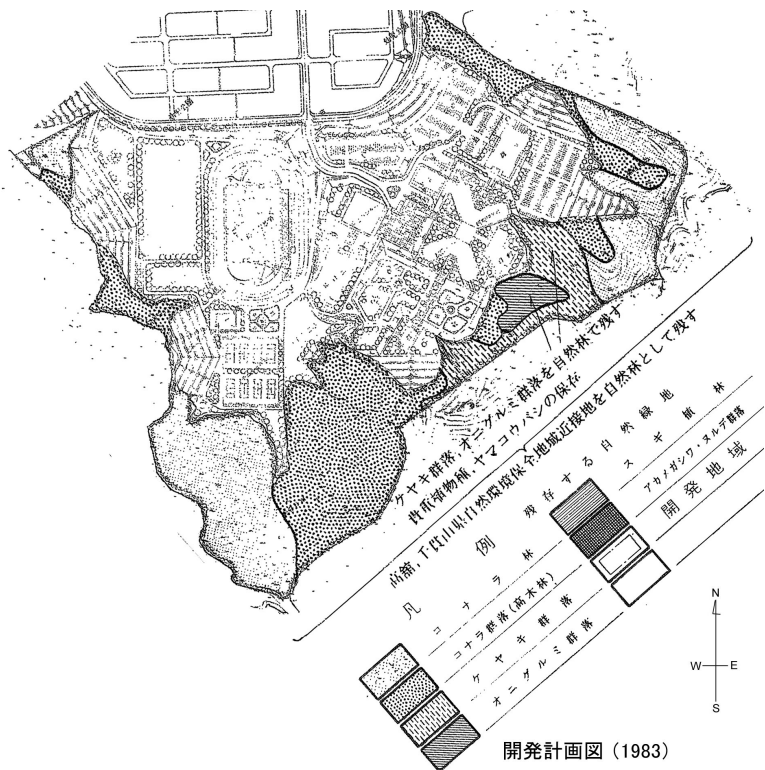
高館・千貫山県自然環境保全地域は、当地方の勝れた自然林であることが指定の基盤としてあるため、隣接する本地域では植栽に当っては、在来種以外で植栽場所から逸出して繁茂する可能性のある樹種・草本による緑化は避け、当地方の風土に合った在来種をできるだけ用いる。また、自然林的植栽には在来種を利用すれば天然更新も可能となる。現況により確認された樹種で植栽木として利用可能なものを次表に挙げる。

表 4-9-14 開発地域で確認された植物種（自生しているもの）で植栽木として利用可能なもの

樹性	樹種
中 針葉樹	モミ、アカマツ
常緑広葉樹	イヌツゲ、ヤブツバキ
高 落葉広葉樹	エゴノキ、クヌギ、コナラ、リョウブ、ヤマボウシ、トチノキ、ケヤキ、イヌシデ
低 常緑広葉樹	イヌツゲ、ヤブツバキ
落葉広葉樹	ヤマツツジ、ニシギギ、マンサク、ムラサキシキブ、レンゲツツジ、ヤマブキ

② コナラ群落等の落葉広葉樹林のもつ各機能への影響の最小化

植生のもつ機能は、その土地利用によって大きく変化するので、開発によって特に問題となるのは本地域が現在、農村地帯の里山であること、将来、住宅地・学校用地になることを考



慮すると、各機能の内、A.レクリエーション機能、B.自然保護機能、C.史跡文化財保全機能、D.生活環境保全機能が中心となる。更に機能によって、その植物群落の取扱いは、a.そのままの形で保存する b.人為を加えて多少変化させる c.人為を加えて新たに作る 等の段階的な方法をとることが望ましい。

例えば、住宅地の中の児童公園では、c.人為を加えてまったく変化させ、新たに植栽を施すことにより快適な利用ができるが、重要な動植物種等を保護したい場合には、a.そのままの形で保存し、植物群落を維持していかなければならないことが多いことである。

そして緑地として、面積、形状、樹林の構造等の形態も機能にできるだけ合わせることを望ましい。

③ ケヤキ群落・オニグルミ群落といった地域的に見て自然性が高い植物群落の保全

植物群落はその立地条件（気候、水分、日照等）に合わせて成立し、群落の構成種は、高木層、亜高木層、低木層、草本層といった垂直構造をつくりだし、互いに依存しながら平面的な広がりを見せている。

学術的希少価値を問う場合・単に高木層の優占種、例えばケヤキとかオニグルミといったものに重点が置かれるのではなく、構成種や階層構造も含まれる。

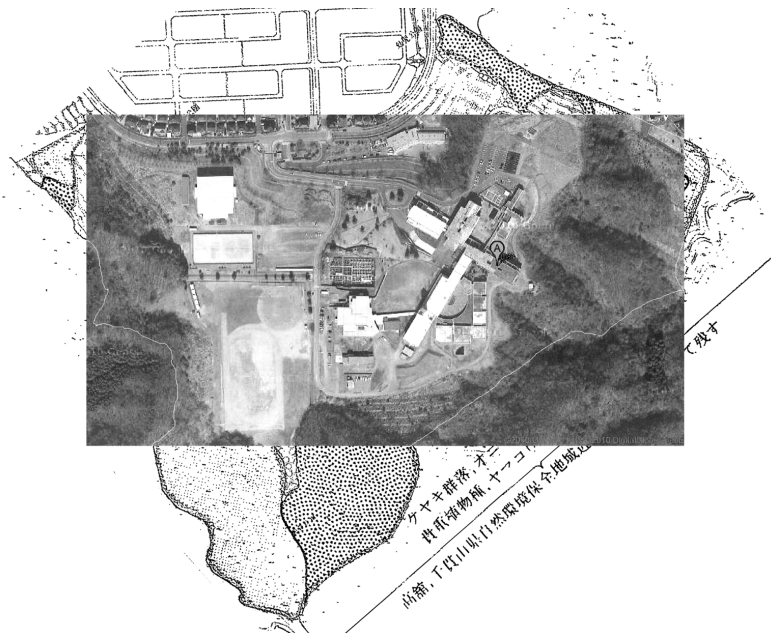
植生を一度破壊すると、植物は自然に生育し、再び森林に戻るという遷移を繰り返すが、必ずしも同一の構成種、構造をもつものに戻るとは限らない。特にケヤキ群落・オニグルミ群落は、一度破壊されると戻りにくい群落であると言われている。

したがって、検討の上保全の必要がある場合には、地形も含めてそのままの状態を保存することが最善の方法である。この場合、森林内の環境を保全するために、周囲に緩衝地帯を設けることが必要である。

(2) 重要な植物種の保全対策

本地域で確認された重要種の生育環境は下表のとおりである。

植物種はそれぞれの生育している植物群落の中で繁殖を繰り返す、種の分布を維持しているため、種の保存にはそれを含む植物群落を保存することが良い方法である。



しかしながら、個体を同一の環境条件下に移植して保存することも可能である。

表 4-9-15 重要種の生育環境

種名	生育環境
ナンブワチガイソウ	落葉広葉樹林の林床
オヤリハグマ	明るい落葉広葉樹林の林床
トウゴクミツバツツジ	やや乾燥した斜面上部の落葉広葉樹林の林中
ヤマコウバシ	ケヤキ群落と一部のコナラ群落の中

オヤリハグマ、トウゴクミツバツツジについては、本地域内に自然緑地を確保することによってそこに移植或いはすでにそこに生育している可能性も充分あるので保存できる。

ナンブワチガイソウについては、個体が極めて少なく、生育個体を探しだすことが困難であり、対策を立てることは不可能である。

ヤマコウバシについては、南東斜面のケヤキ群落及びコナラ群落で生育している。いずれも林床のすいた樹高の高い林である。このような環境があれば移植により保存できる。

(3) 重要な動物の棲息場所等の保全対策

これについては動物編で述べる。

(4) 生活環境としての緑の保全対策

本地域は丘陵地であるため法面が多くなるが、将来的に住宅地・学校用地となるため、できるだけ樹林に覆われた斜面にすることが望ましい。

そのため、法面に植穴を掘り、主に木本を植付ける植栽工事により、早期の緑化を図ることが望まれる。

(5) 景観としての緑の保全対策

対策としては(4)に準じる。植栽樹種としては周辺の樹林の構成種とする。植栽材料の確保としては本地域の造成面上の樹木を造成前にあらかじめ他の場所へ移してそれを利用する方法もある。

(6) 歴史的象徴の構成要素としての緑の保全対策

本地域北端部の平野に面する斜面に位置するほこらの周辺の地形・植生を保存する。

予測

予測対象区域は、現況調査区域のうち、貴重な植生或いは自然状態が比較的良く保存されている植生等の保全対象があると判明した区域が該当するが、本地域の植生はコナラ、クリを主

体とし、ケヤキ群落、オニグルミ群落、スギ植林、ススキ草原等からなり、これらは宮城県の丘陵地において普通に見られるもので、特に貴重なものではない。

したがって予測は、2 環境保全目標で掲げた六つの項目について行い、予測範囲は本地域内とする。また、予測方法は、切土・盛土が実施される範囲と環境保全目標に掲げた植物種及び植物群落の位置等を対照することによって行い、それらの植物の消滅の有無や改変の程度を予測する。

(1) 重要な植物群落

①高館・千貫山自然環境保全地域

本地域内に自然林をできる限り取り入れることにより調和を図れば影響は殆どない。また、緑地の造成に当っては本地域の出現種をできる限り用いることにより影響はない。

②コナラ群落等の落葉広葉樹林

自然法面を導入していくことによりコナラ群落等の落葉広葉樹林は残る。

③ケヤキ群落・オニグルミ群落

本地域内南部の地形と植生を保存すれば影響は少ない。

(2) 重要な植物種

オヤリハグマ、トウゴクミツバツツジについては、本地域中央部の法面を自然法面として導入すれば、移植等の方法により保存できる。

ヤマコウバシについては、南部の樹林が保全されれば保存できる。

ナンブワチガイソウについては保存不可能と考えられる。

(3) 重要な動物の棲息場所 これについては動物編で述べる。

(4) 生活環境としての緑

適切な斜面の緑化等により生活環境としての緑は確保される。

(5) 景観としての緑

これについては景観編で述べる。

(6) 歴史的象徴の構成要素としての緑

ほこら周辺の地形と植生を残すことにより、歴史的象徴の構成要素としての緑は保全される。

評価

環境保全目標を満足するか否かを基準とし予測結果を踏まえ評価する。

(1) 重要な植物群落

①高館・千貫山自然環境保全地域

調和を図ることにより影響はない。

②コナラ群落等の落葉広葉樹林

地域内に自然法面を導入し、造成法面についても植栽工を施すことに影響はない。

③ケヤキ群落・オニグルミ群落

形を含めて植生を保存し、緩衝地帯を設ければ影響はない。

(2) 重要な植物種

オヤリハグマ、トウゴクミツバツツジについては、保存可能なので影響はない。

ヤマコウバシについては、隣接する高館・千貫山自然環境保全地域にも出現するので、本地域内で保存できなくとも影響は少ないと考えられる。

ナンブワチガイソウについては、対策を講じることが困難であり、開発による影響だけではないので評価は不可能である。

(3) 重要な動物の棲息場所等 これについては動物編で述べる。

(4) 生活環境としての緑 法面の緑化等により影響は少ない。

(5) 歴史的象徴の構成要素としての緑

地形も含めた植生の保存を図ることにより影響は少ない。

高館・千貫山緑地環境保全地域

(宮城県 HP より)

1. 地域の概要

この地域は仙台平野の南西部に位置し、北は高館山から南は阿武隈川に面する千貫山まで、幅約5kmで南北に細長く連なる高館丘陵のうち、県自然環境保全地域に指定されている樽水・五社山地域を除いた残りの地域となっています。

高館丘陵は、広義の仙台平野における代表的な丘陵の一つで、基盤は、主に数百万年前の火山岩、火砕岩と花崗岩類から成っています。こうした硬い岩石が多いので、長い年月の間にもあまり侵食されず、緩やかな丘陵として残ったのです。

地域内には古くからの寺社・仏閣や遺跡など歴史を感じさせるものが多く、それが豊かな自然の中にほどよく溶け込んで、古代のロマンを訪れる人の心に静かに語りかけてくれます。

2. 高館・千貫山のいきものたち

植生は、コナラ・クリの二次林とスギ植林、アカマツ植林が高い占有率を示しています。動物は、トウホクノウサギ、ニホンリス、ホンドタヌキ、ホンドイタチなど県内の丘陵地に普通の種類が多く、鳥類はサンコウチョウ、ノスリ、フクロウ、アカゲラなどが認められています。また、この地域では国蝶のオオムラサキの姿も見られます。オオムラサキの幼虫はエノキの葉を食べ、成虫になるとクヌギ、コナラ、ヤナギ類の樹液を吸います。

コナラ・クリ林やクヌギ林がある所では、セセリチョウやヒカゲチョウ、シジミチョウの仲間が多く認められます。また、こうした林の中には、カブトムシ、ミヤマクワガタ、カナブン、アオオサムシなども生息しています。

3. 里山の野鳥

コナラ・クリ林、アカマツ林、スギ林が点在する中に沼や溜池があると、数多くの野鳥が集まってきます。オナガ、ホオジロ、モズ、ヤマドリ、コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイスなどの留鳥の他に、夏には夏鳥のホトトギス、カッコウ、オオルリなど、冬にはツグミ、シメ、ベニマシコ、マヒワなどを見ることができます。

たかだてやま

あぶくまがわ
せんがんやま
たるみず
ごしゃさん



373. ナンブワチガイ 【希少種】〔なでしこ科〕
Pseudostellaria japonica (Korsh.) Pax
本州北部に産し、中国東北部に分布する多年生草本である。根は無柄で対生し、下部の葉は細く皮針形であるが、上部の葉は卵形で尖り、長さ1.5~4cm、幅6~22mm、毛が散生し、特にふちや下面の脈上では長い毛が目立つ。春、茎頂または上部の葉腋から細い有毛の長さ1.5cmぐらゐの花梗を出し、白花をつける。がく片は4~5個、長さ3~4mm。花弁も4~5個、倒卵形、白色で、長さ4~6mmある。雄しべは8~10個。花柱は2個。茎の下部の葉腋には閉鎖花をつける。
〔日本名〕南部ワチガイ。岩手県の南部という地名に基づいて名づけられた。



500. ヤマコウバシ 【希少種】〔くすのき科〕
Lindera glauca (Sieb. et Zucc.) Blume
各地の山地にはえる落葉低木。高さは5mになり、幹は直立して分枝し、樹皮は茶灰色、枝は硬くてもろい。葉には柄があり、互生し、長楕円形あるいは長楕円状倒卵形で、両端は尖り、裏面は緑白色で軟毛がある。春、新芽とともにその葉の腋に柄のある散形花序をつけ、淡黄緑色の小さい花が数個かたまって開く。雌雄異株である。花被は6裂し、花被片は楕円形、長さは1.5mmぐらゐである。雄しべは9個で、外側の輪に6個、内側の輪に3個あり、内側の雄しべはそれぞれ腺体を2個ずつそなえている。花柄は長さが5mmぐらゐで、軟毛ははえている。10月頃、果実が熟して黒くなり、直径は7mmぐらゐで、多少辛味がある。冬でもなお枯れた葉は落ちずに枝につき、翌春までつややく落ちる。〔日本名〕山香しの意味であらう。枝を折ると多少香気があるからこのように言うのだと思う。〔漢名〕山胡椒は本種ではない。



2143. トウゴクミツバツツジ 【希少種】〔つじ科〕
Rhododendron wadanum Makino
本州中部の山地に普通に見られる落葉低木で、高さは2~3m、多くの枝にわかれ、冬芽のりん片は褐色の毛でおおわれる。葉は枝の先に3個輪生し、ひし形状広卵形で、長さは5~8cm。葉先は短かく鋭形、基部は幅広いくさび形で、全縁、新葉の時は黄褐色の長い毛が密にはえている。生長後もおお表面に多く褐色の毛を残し、葉柄および中央脈表面には白毛が密にはえ、乾けば淡褐色に染る。5月、葉が開く前に多数の紫色の花を横向きに開く。がくは皿状で鈍き上歯をもち、花柄とともに細毛がある。花冠は径3~4cm、深く5裂してはほぼ平らに開き、裂片は広い楕円形で先は鈍円形。筒部は短かく上面に濃紫色のほん点がある。雄しべは10本あり長さは不同で、外側のものは先端が上に向く。子房には白毛が密にはえ、花柱は細長く下部に細い腺毛がある。さく果は卵状長楕円形で、普通弓形に曲り表面に細毛があり、5片に裂開して種子を出す。まれに白い花をつけるものもあり、シロバナトウゴクミツバツツジという。〔日本名〕東国三葉ツツジで主として関東の山地に多いので名づけられた。



2941. オヤリハグマ 【希少種】〔きく科〕
Pertya triloba (Makino) Makino
関東北部と東北地方の山地の林内にはえる多年草で、根はひげ状で多数、茎は直立し、高さ30~60cm、細くて硬い。葉は互生し、中葉は大形で長い柄があり、葉身はやや硬く、長さ10~13cm、幅7~13cmで上部が3中裂し、裂片は先の鋭い長楕円形で、へりは浅くまばらな欠刻歯があり、上面はやや無毛で緑色、下面には網脈があって脈上とへりにちぢれた短毛がある。上葉はしだいに小形となり、柄もなくなる。8~10月ごろ茎の上部で分枝し、円すい状に白色の頭花を着ける。頭花はただ1個の管状花からなり、花冠は5裂し、裂片は線形である。総苞は狭い筒形で長さ14~17mm、そう果は長さ1cmたらずで上方に細毛があり、上端に多数の冠毛がある。〔日本名〕御槍ハグマで、細くて直線的な頭花を、槍の穂にみたてたもの。



〔偶蹄目
うし科〕

2137. かもしか 【希少種】
Capricornis crispus (TEMMINCK)
頭明1300mm、肩高665mm、尾90mmぐらゐ。歯式: 0033/3133=32。本州南部産は普通黒茶色、本州中部では灰茶色、そして岩手・宮城・福島県下のものほとんど灰白色で、背の正中線に黒毛を混生している。ときに淡赤褐色のものが出るこれを var. *pryerianus* Heude と呼ぶ。雄の角は細く鋭く、雌のは太く鈍い。カモシカは本州・四国・九州の山岳地方に特有の高山獣で、亜種は台湾にタイワンカモシカ *swinhoei* Gray がいる。この種は高山の常緑針葉樹帯から草本帯の間や岩山に孤独ですみ、人の特殊の行動、例えば赤布を振るとか、踊りとかを遠望したり、犬に追上げられても、しばしば岩上に佇立し、前肢だけを動かす。草食性であるが、樹葉も食べる。4~6月に一産1子を分娩する。この牛科の珍獣は世界的のものとしてわが国の貴重な天然記念物である。〔黒田長禮〕



766. オオムラサキ *Sasakia charonda* Hewitson 〔タテハチョウ科〕
前翅長50~55mm。オスの翅表は前後翅共基部から中央にかけて全面が濃い紫色、その外側を幅広く黒色で囲む。中央の紋列は白色でその周囲は黄色。メスは大型で紫色部がなく、地色は黒褐色。裏面は前翅前半と後翅が濃い黄色(白色のものもある)。日本産最大のタテハで国蝶に指定されている。〔食草〕エノキ。〔分布〕北海道・本州・四国・九州; 朝鮮・中国・台湾。〔出現期〕6月~7月に発生。

北隆館「牧野・日本植物図鑑」
北隆館「日本動物図鑑」
北隆館「日本昆虫図鑑」

尚綱学入門

登場する動植物

- | (標準和名) | (学名 Scientific name) | | |
|--------------|--|----------------|--|
| 1.カタクリ | <i>Erythronium japonicum</i> | 39.フデリンドウ | <i>Gentiana zollingeri</i> |
| 2.カスミザクラ | <i>Prunus verecunda</i> | 40.ラショウモン | <i>Meehania urticifolia</i> |
| 3.ウワミズザクラ | <i>Padus grayana</i> | カズラ | |
| 4.イカリソウ | <i>Epimedium grandiflorum</i>
<i>var. thunbergianum</i> | 41.ヤマグワ | <i>Morus australis</i> |
| 5.ハウチワカエデ | <i>Acer japonicum</i> | 42.ミツバアケビ | <i>Akebia trifoliata</i> |
| 6.ショウジョウバカマ | <i>Heloniopsis orientalis</i> | 43.ミヤマガマズミ | <i>Viburnum wrightii</i> |
| 7.エンレイソウ | <i>Trillium smallii</i> | 44.ヤマウルシ | <i>Toxicodendron</i>
<i>trichocarpum</i> |
| 8.ミヤマエンレイソウ | <i>Trillium tschonoskii</i> | 45.エゴノキ | <i>Styrax japonica</i> |
| (希少種) | | 46.キムネクマバチ | <i>Xylocopa appendiculata</i>
<i>circumvolans</i> |
| 9.チゴユリ | <i>Disporum smilacinum</i> | 47.オオスズメバ | <i>Vespa mandarinia</i> |
| 10.ワニグチソウ | <i>Polygonatum involucratum</i> | 48.ニホンマムシ | <i>Gloydus blomhoffii</i> |
| 11.ナルコユリ | <i>Polygonatum falcatum</i> | 49.クマノミズキ | <i>Swida macrophylla</i> |
| 12.ヒトリシズカ | <i>Chloranthus japonicus</i> | 50.ホオノキ | <i>Magnolia obovata</i> |
| 13.フタリシズカ | <i>Chloranthus serratus</i> | 51.ミンミンゼミ | <i>Hyalessa maculaticollis</i> |
| 14.トウゴクミツバ | <i>Rhododendron wadanum</i> | 52.エサキモンキツノ | <i>Sastragala esakii</i> |
| ツツジ (外来種) | | カメムシ | |
| 15.ブタナ (外来種) | <i>Hypochaeris radicata</i> | 53.アカキンスジ | <i>Poecilocoris lewisi</i> |
| 16.セイヨウタンポポ | <i>Taraxacum officinale</i> | カメムシ | |
| (外来種) | | 54.エゾアオカメムシ | <i>Palomena angulosa</i> |
| 17.エゾタンポポ | <i>Taraxacum hondoense</i> | 55.ウンモンズメガ | <i>Callambulyx</i>
<i>tatarinovii gabyae</i> |
| 18.ムラサキシキブ | <i>Callicarpa japonica</i> | 56.メスグロヒョウモン | <i>Damora sagana</i> |
| 19.マムシグサ | <i>Arisaema serratum</i> | 57.オオムラサキ (国蝶) | <i>Sasakia charonda</i> |
| 20.ヤマジノホトトギス | <i>Tricyrtis macropoda</i> | 58.ゴマダラチョウ | <i>Hestina persimilis japonica</i> |
| 21.ジャノヒゲ | <i>Ophiopogon japonicus</i> | 59.スミナガシ | <i>Dichorragia nesimachus</i> |
| 22.ネジバナ | <i>Spiranthes sinensis</i>
<i>var. amoena</i> | 60.ウラギンシジミ | <i>Curetis acuta paracuta</i> |
| 23.カラスノエンドウ | <i>Vicia sativa</i> | 61.アカタテハ | <i>Vanessa indica</i> |
| 24.カスマグサ | <i>Vicia tetrasperma</i> | 62.ルリタテハ | <i>Kaniska canace</i> |
| 25.スズメノエンドウ | <i>Vicia hirsuta</i> | 63.オナガアゲハ | <i>Papilio macilentus</i> |
| 26.ホタルブクロ | <i>Campanula punctata</i>
<i>var. hondoensis</i> | 64.モンキアゲハ | <i>Papilio helenus</i> |
| 27.オヤリハグマ | <i>Pertya triloba</i> | 65.カラスアゲハ | <i>Papilio bianor</i> |
| (希少種) | | 66.オニヤンマ | <i>Anotogaster sieboldii</i> |
| 28.オヤマボクチ | <i>Synurus pungens</i> | 67.ヒダリマキマイマイ | <i>Euhadra quaesita</i> |
| 29.センダイトウヒレン | <i>Saussurea nipponica</i>
<i>var. sendaica</i> | 68.ツバメ | <i>Hirundo rustica</i> |
| 30.ジャノメチョウ | <i>Minois dryas</i> | 69.メジロ | <i>Zosterops japonicus</i> |
| 31.ギンリョウソウ | <i>Monotropastrum humile</i> | 70.コゲラ | <i>Dendrocopos kizuki</i> |
| 32.ベニタケ sp. | <i>Russula sp.</i> | 71.カワラヒワ | <i>Carduelis sinica</i> |
| 33.ツチグリ sp. | <i>Astraeus sp.</i> | 72.ミヤマクワガタ | <i>Lucanus</i>
<i>maculifemoratus</i> |
| 34.オカトラノオ | <i>Lysimachia clethroides</i> | 73.トウホクノウサギ | <i>Lepus brachyurus</i>
<i>angustidens</i> |
| 35.オニドコロ | <i>Dioscorea tokoro</i> | 74.ニホンカモシカ | <i>Capricornis crispus</i> |
| 36.カワラナデシコ | <i>Dianthus superbus</i>
<i>var. longicalycinus</i> | 75.ツキノワグマ | <i>Ursus thibetanus</i> |
| 37.オニグルミ | <i>Juglans mandshurica</i>
<i>var. sachalinensis</i> | 76.ハクビシン | <i>Paguma larvata</i> |
| 38.ホタルカズラ | <i>Lithospermum zollingeri</i> | 77.ホンドタヌキ | <i>Nyctereutes</i>
<i>procyonoides</i> |

沿革

14. 沿革

1890(M23)年	西部バプテスト女性外国伝道協会宣教師ラヴィニア・ミード来仙。家塾開設
1892(M25)年	「尚綱女学会」開校式。アニー S. ブゼル来仙
1896(M29)年	校舎と寄宿舎(エラ・オー・パトリック・ホーム)落成
1899(M32)年	私立学校令により「私立尚綱女学校」設立許可。ブゼル初代校長就任
1902(M35)年	校章制定
1903(M36)年	同窓会発足
1910(M43)年	高等女学校として認可。(旧制)高等専門学校入学者無試験検定資格認定
1917(T6)年	尚綱女学校創立二十五周年記念祝賀、校歌(土井晩翠作詞、佐々木英作曲)・校旗制定
1919(T8)年	メリー D. ジェッシー第二代校長就任
1920(T9)年	三年制の高等科(英文科、家事科)年開設
1929(S4)年	高等科校舎インディアナ・ビルディング落成
1942(S17)年	「財団法人仙台尚綱女学校」設立。校名改称「仙台尚綱女学校」
1943(S18)年	校名改称「仙台尚綱高等女学校」
1947(S22)年	学制改革により新制中学校設置
1948(S23)年	新制高等学校設置。法人名改称「尚綱女学院」
1950(S25)年	尚綱女学院短期大学(英語科・家政科)開設。ジェッシー初代学長就任
1951(S26)年	財団法人を「学校法人」に組織変更
1952(S27)年	家政科栄養士養成施設指定
1955(S30)年	保育科開設
1956(S31)年	尚綱女学院短期大学附属幼稚園設置
1960(S35)年	尚綱女学院後援会設立
1963(S38)年	尚綱音楽教室設立
1964(S39)年	家政科を家政専攻・食物栄養専攻に分離。保育専攻科設置
1967(S42)年	短期大学に英文科開設。荒巻(中山)年新校舎落成
1968(S43)年	保育科荒巻(中山)年移転
1978(S53)年	四年制大学設置を含む「尚綱女学院短期大学今後のビジョン」発表
1983(S58)年	名取市への統合移転、四年制大学設置を含む「尚綱女学院の建設構想」発表
1989(H 元)年	短期大学名取市(名取キャンパス)年移転、人間関係科新設
1992(H4)年	創立 100 周年記念式典挙行
1994(H6)年	専攻科に食物栄養専攻増設
1995(H7)年	専攻科に生活科学専攻増設。米国「セントラルワシントン大学」 「イースタンワシントン大学」「モンタナ大学」との留学単位振替制度確立
1998(H10)年	大韓民国「イサベル中学・高等学校」姉妹校調印
2000(H12)年	短期大学附属幼稚園、名取キャンパス移転
2002(H14)年	名取市と「文化・産業事業支援に関する協定書」調印
2003(H15)年	尚綱学院大学開学、総合人間科学部開設。法人名・校名改称「尚綱学院」、「尚綱学院大学女子短期大学部」「尚綱学院女子高等学校」「尚綱学院女子中学校」「尚綱学院大学女子短期大学附属幼稚園」。タイ国「サハミット学園」姉妹校調印
2004(H16)年	学院歌制定。米国「ジャドソン大学」との姉妹校調印
2007(H19)年	表現文化学科、現代社会学科、生活環境学科、大学院総合人間科学研究科開設
2008(H20)年	共学化に伴い校名改称「尚綱学院高等学校」「尚綱学院中学校」 名取市と「教育・児童福祉の充実等に向けた連携教育に関する覚書」締結
2009(H21)年	大学図書館、実習棟竣工。名取市と「官学連携に関する基本協定書」調印。名取市増田地区に「尚綱学院大学生涯学習センター」開設
2010(H22)年	名取市と「官学連携に関する基本協定書」「官学連携に関する覚書」締結。 大学に子ども学科開設。エラ・オー・パトリック・ホームゆりが丘移設復元
2011(H23)年	女子短期大学部廃止
2012(H24)年	大学礼拝堂竣工。中国「大連理工大学」との交換交流協定締結
2015(H27)年	環境構想学科開設、ラーニングステーション設置。台湾「弘光科技大学」協定校調印
2016(H28)年	米国「シカゴ心理専門職大学院」、韓国「培材大学」、ロシア「ハバロフスク地方芸術専修大学」中国「浙江越秀外国語学院」協定校調印。臨床心理相談室竣工
2017(H29)年	大学院人間学専攻開設、総合人間科学研究所に環境デザイン教育研究センター、アクティブ・ラーニング研究・実践センター設置

尚綱学入門

15. キリスト教教派が設立に関わった主な教育機関《設立年順》

1863年	明治学院	東京都港区	アメリカ長老教会、アメリカ改革派教会
1870年	フェリス女学院	神奈川県横浜市	アメリカ・オランダ改革派教会
1870年	女子学院	東京都千代田区	アメリカ長老教会
1871年	横浜共立学園	神奈川県横浜市	超教派
1872年	東奥義塾	青森県弘前市	アメリカ・オランダ改革派教会
1872年	梅光女学院	山口県下関市	アメリカ改革派教会・北長老教会
1874年	青山学院	東京都渋谷区	アメリカ・メソジスト監督教会
1874年	立教学院	東京都豊島区	アメリカ聖公会
1875年	神戸女学院	兵庫県西宮市	アメリカン・ボード
1875年	同志社	京都府京都市	アメリカン・ボード
1875年	平安女学院	京都府京都市	アメリカ聖公会
1877年	立教女学院	東京都杉並区	アメリカ聖公会
1878年	梅花学園	大阪府豊中市	日本基督教団
1879年	プール学院	大阪府大阪市	イギリス聖公会
1879年	活水学院	長崎県長崎市	アメリカ・メソジスト監督教会
1880年	横浜英和学院	神奈川県横浜市	アメリカ・メソジスト・プロテスタント教会
1880年	聖和大学	兵庫県西宮市	アメリカン・ボード、米南メソジスト監督教会
1881年	鎮西学院	長崎県諫早市	アメリカ・メソジスト監督教会
1882年	遺愛学院	北海道函館市	アメリカ・メソジスト監督教会
1884年	関東学院	神奈川県横浜市	アメリカン・バプテスト教会
1884年	東洋英和女学院	東京都港区	カナダ・メソジスト教会
1884年	桃山学院	大阪府堺市	イギリス聖公会
1884年	頌栄女子学院	東京都港区	アメリカ長老教会
1885年	福岡女学院	福岡県福岡市	アメリカ・メソジスト監督教会
1885年	北陸学院	石川県金沢市	アメリカ長老教会
1886年	宮城学院	宮城県仙台市	アメリカ・ドイツ改革派教会
1886年	広島女学院	広島県広島市	アメリカ南メソジスト監督教会
1886年	弘前学院	青森県弘前市	アメリカ・メソジスト監督教会
1886年	松山東雲学園	愛媛県松山市	日本基督教団
1886年	捜真学院	神奈川県横浜市	アメリカン・バプテスト教会
1886年	東北学院	宮城県仙台市	アメリカ・ドイツ改革派教会
1887年	静岡英和学院	神奈川県静岡市	カナダ・メソジスト教会
1887年	普連土学園	東京都港区	キリスト友会
1887年	北星学園	北海道札幌市	アメリカ長老教会
1887年	名古屋学院	愛知県名古屋市	アメリカ・メソジスト教会
1888年	共愛学園	群馬県前橋市	アメリカン・ボード
1888年	暁星学園	東京都千代田区	カトリック・マリア会
1888年	香蘭女学校	東京都品川区	日本聖公会
1889年	関西学院	兵庫県西宮市	アメリカ南メソジスト監督教会
1889年	金城学院	愛知県名古屋市	アメリカ南長老教会
1889年	山梨英和学院	山梨県甲府市	カナダ・メソジスト教会
1891年	松山学院	愛媛県松山市	アメリカン・ボード
1892年	尚綱学院	宮城県名取市	アメリカン・バプテスト教会
1892年	松蔭女子学院	兵庫県神戸市	イギリス聖公会
1893年	日ノ本学園	兵庫県神崎郡	アメリカン・バプテスト教会
1898年	三育学院	千葉県夷隅郡	セブンスデー・アドベンチスト教団
1898年	柳城学院	愛知県名古屋市	カナダ聖公会
1903年	聖学院	東京都北区	ディサイプルス

キリスト教教派が設立に関わった主な教育機関

1908年 聖心女子学院	東京都渋谷区 カトリック・聖心会
1909年 雙葉学園	東京都千代田区 カトリック・幼きイエス会
1911年 九州学院・九州女学院	熊本県熊本市 アメリカ一致ルーテル教会
1913年 上智学院	東京都千代田区 カトリック・イエズス会
1916年 西南学院	福岡県福岡市 米国南部バプテスト教会
1918年 岐阜済美学院	岐阜県岐阜市 アメリカ南長老教会
1918年 東京女子大学	東京都杉並区 アメリカン・バプテスト教会、カナダ・メソジスト教会、アメリカ・メソジスト教会、アメリカ長老教会、アメリカ改革派教会、ディサイプルス
1922年 西南女学院	福岡県北九州市、米国南部バプテスト教会
1923年 啓明女学院	兵庫県神戸市 アメリカ南メソジスト監督教会
1925年 藤学園	北海道札幌市 カトリック・フランシスコ会女子修道院
1932年 南山学園	愛知県名古屋市長久寺 カトリック・神言修道会
1935年 清泉女子大学	東京都品川区 カトリック・聖心侍女修道女会
1936年 白百合学園	東京都千代田区 カトリック・シャルトル聖パウロ修道女会
1946年 桜美林学園	東京都町田市 日本基督教団
1949年 ラ・サール学園	鹿児島県鹿児島市 カトリック・ラ・サール修道会
1948年 独立学園	山形県小国町 無教会
1949年 四国学院	香川県善通寺市 アメリカ南長老教会
1950年 横須賀学院	神奈川県横須賀市 アメリカ・メソジスト監督教会
1950年 玉川聖学院	東京都世田谷区 チャーチ・オブ・ゴッド
1952年 ノートルダム女学院	京都府京都市 カトリック・ノートルダム教育修道女会
1953年 国際基督教大学	東京都三鷹市 超教派
1962年 英知学院	兵庫県尼崎市 カトリック大阪大司教区
1963年 八代学院	愛知県神戸市 日本聖公会
1964年 名古屋学院大学	愛知県瀬戸市 アメリカ・メソジスト教会
1969年 敬和学園	新潟県新発田市 日本基督教団

参考文献(五十音順)

- アリストテレス『ニコマコス倫理学(上)』(高田三郎訳) 岩波書店 1971年
- 小野寺正美「尚綱女学院に学んだ同窓生の回顧と願い」尚綱学院同窓会編『むつみのくさり』復刊第11号 2015年所収
- 影山礼子『ブゼル先生とバイブル・クラスの学生たち—近代日本の人間形成』関東学院大学出版会 2015年
- 金谷治『大学・中庸』岩波書店 2008年
- 栗原基『ブゼル先生伝』大空社 1992年
- 佐藤通雅「学院歌作詞について」尚綱学院同窓会編『むつみのくさり』復刊第11号 2015年所収
- 宍戸朗大『バプテスト派の初期伝道誌 東北伝道とバイブル・ウーマンの活動』耕風社 1995年
- 島田虔次『大学・中庸』新訂中国古典選第4巻、朝日新聞社 1967年
- 尚綱女学院100年史編集委員会『尚綱女学院100年史』2002年
- スティブンス、ロバータ・L(河内愛子訳)『根づいた花—メリー・D・ジェッシーと尚綱女学院』キリスト新聞社 2003年
- 田澤晴子『吉野作造—人世に逆境はない』ミネルヴァ書房 2006年
- 同志社大学人文科学研究所『日本の近代化とキリスト教』新教出版社 1973年
- 遠野聖光幼稚園創立80周年記念事業実行委員会『遠野聖光幼稚園80年のあゆみ』2002年
- 徳善義和・今橋朗『よくわかる・キリスト教の教派』キリスト新聞社 2002年
- 成田龍一『大正デモクラシー』岩波書店 2009年
- 森岡清美『明治キリスト教会形成の社会史』東京大学出版会 2005年